



新撰雜歌
 卷一

△ 7
 4880
 1



門 57
4880
1-

新 撰 大 工 雜 形 序

和 輕 工 匠 乃 道 也

神 武 天 皇 御 傍 檀 原 の 地 以 来 也

志 部 の 志 弁 志 鉦 を 以 来 帝 宅 を 確 立

大 江 と 規 奉 む の 事 宮 社 殿 階 四 河

室 舎 以 來 是 上 棟 手 弁 堅 壯 始 乃 也

大 工 雜 形

来より人皇三十三代 推古帝一之能君

上官太子百福園より後々の職司と云く。

寺院樓基廊房堂塔園庫門石塙壁

經堂の秘帳と教習り後規程

準繩毫厘と不誤此何なる異域と云く。

其先哲ありて難形等の明細亦亦書

救く者として。工量に便するのを云く。其の

儀らるる。平世に業と云く。其の

何素より頻ふ。其の元来甲斐と云く。

おぼくは。遠の愛ひと云く。其の

経ね。其の耳明と云く。其の

事。其の心明と云く。其の

大工難形

同和文 平妻共

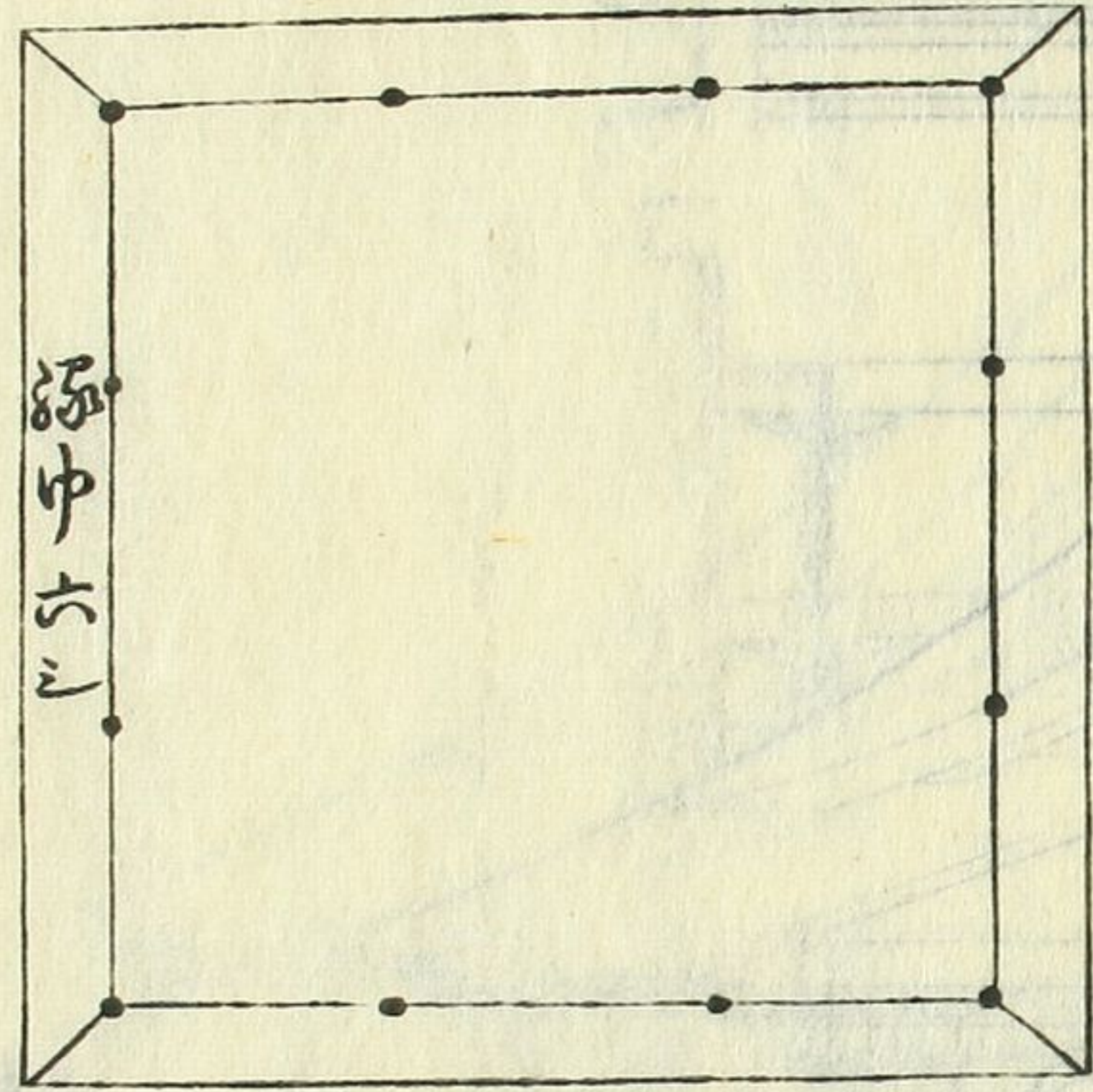
同和文

神の字、之間社 事奉

神の一間宮座

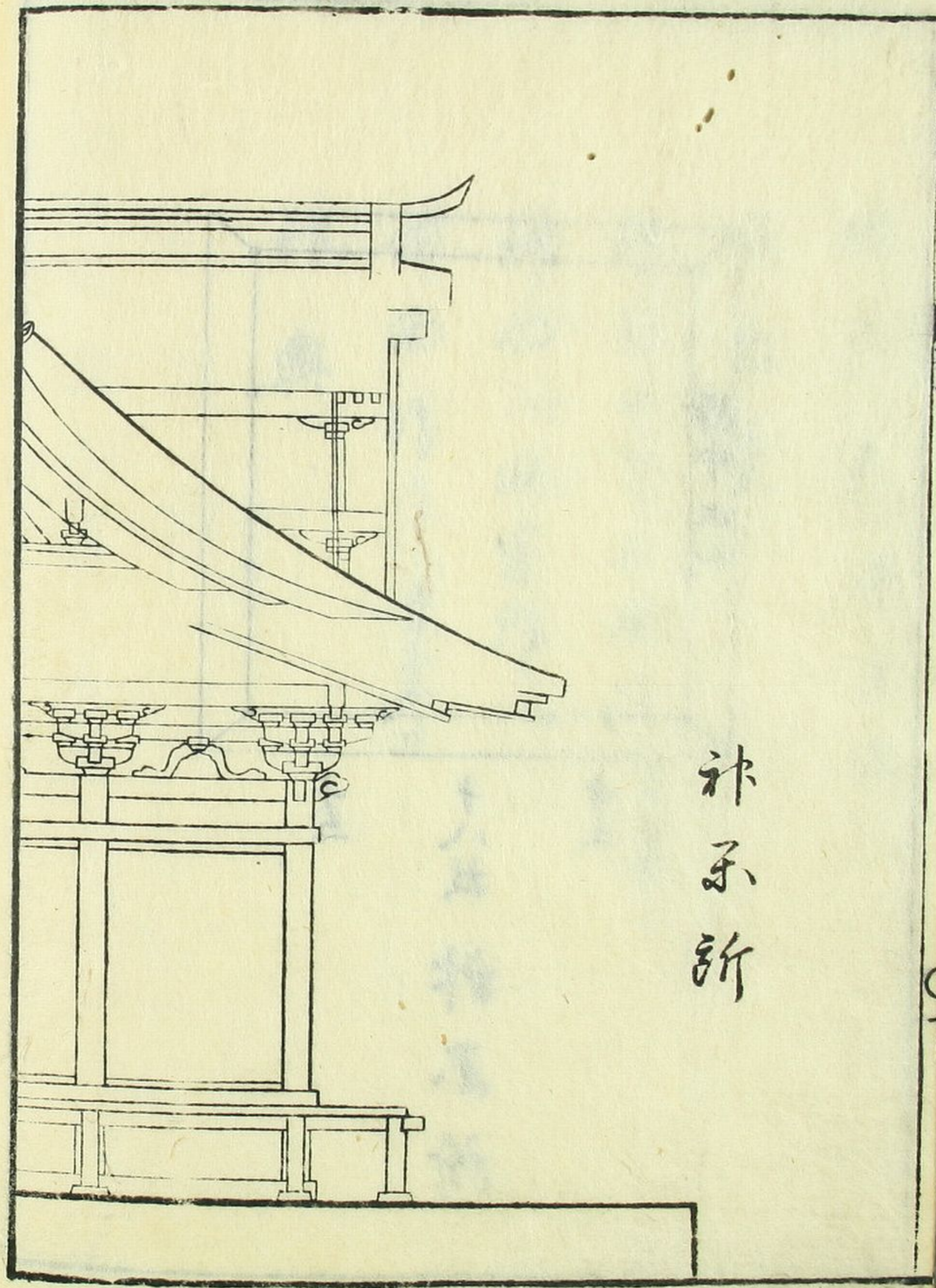
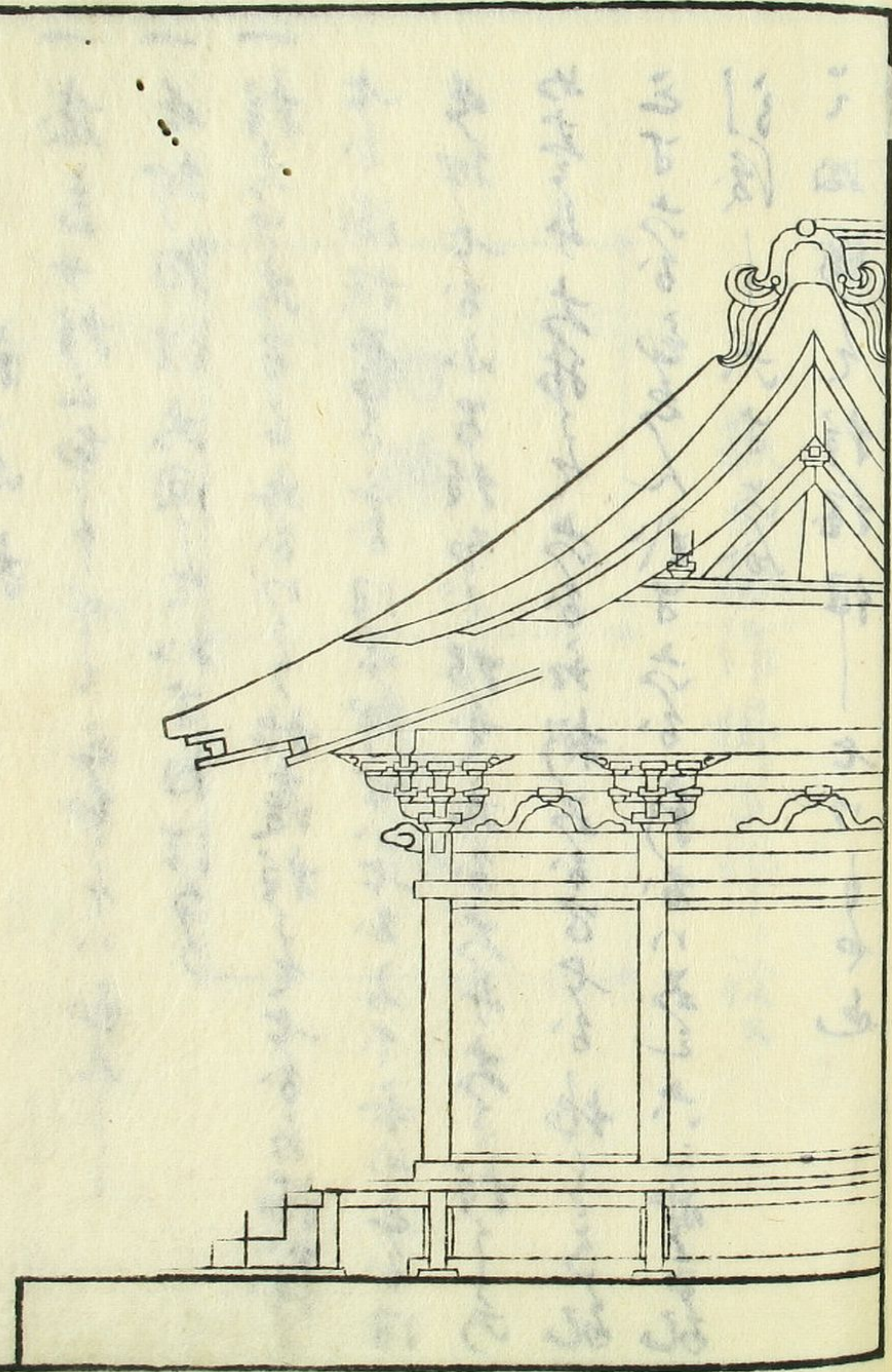
七面作、事奉在

神輿



十二 十二

十八枝 神不所

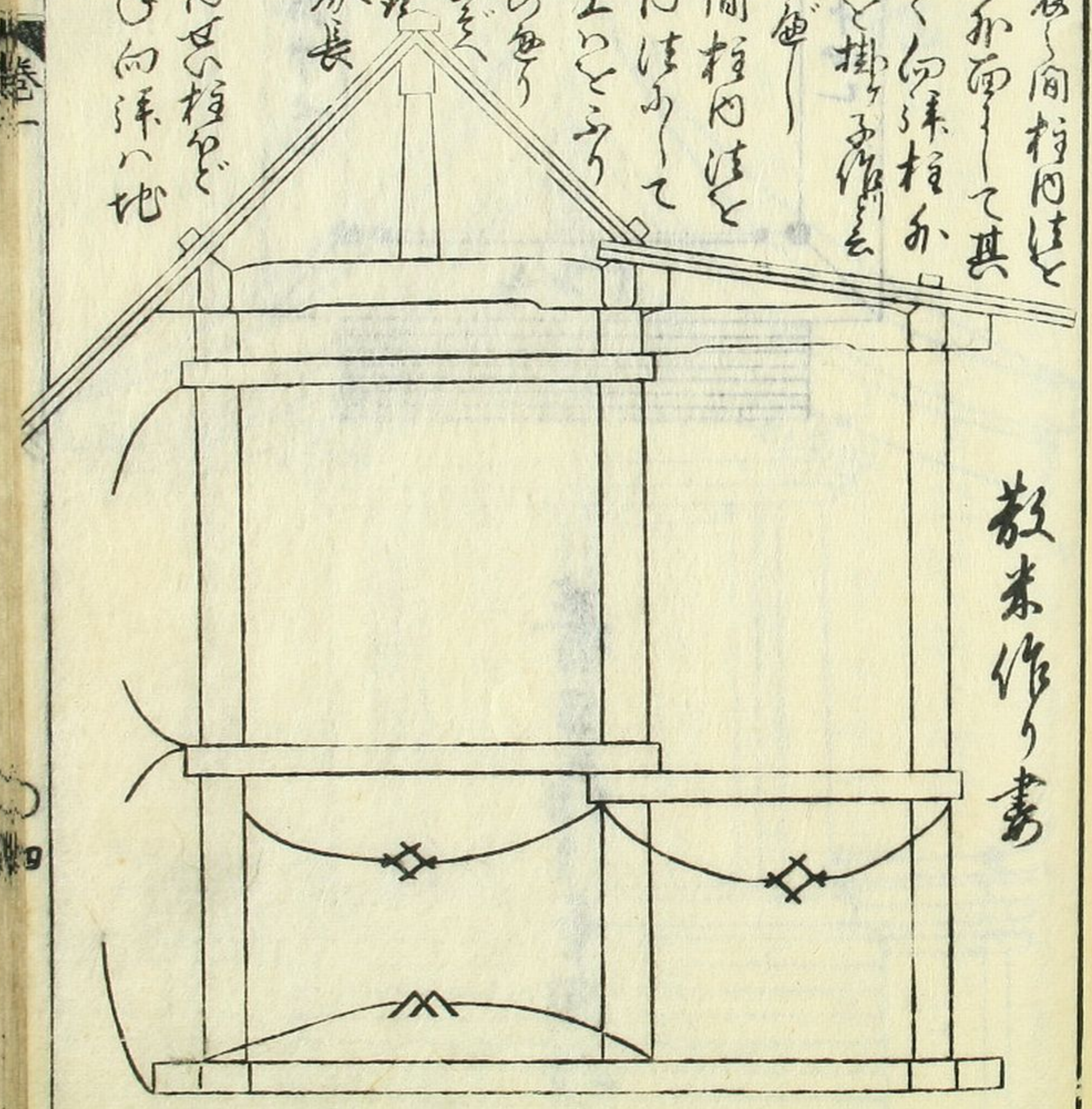


禊所

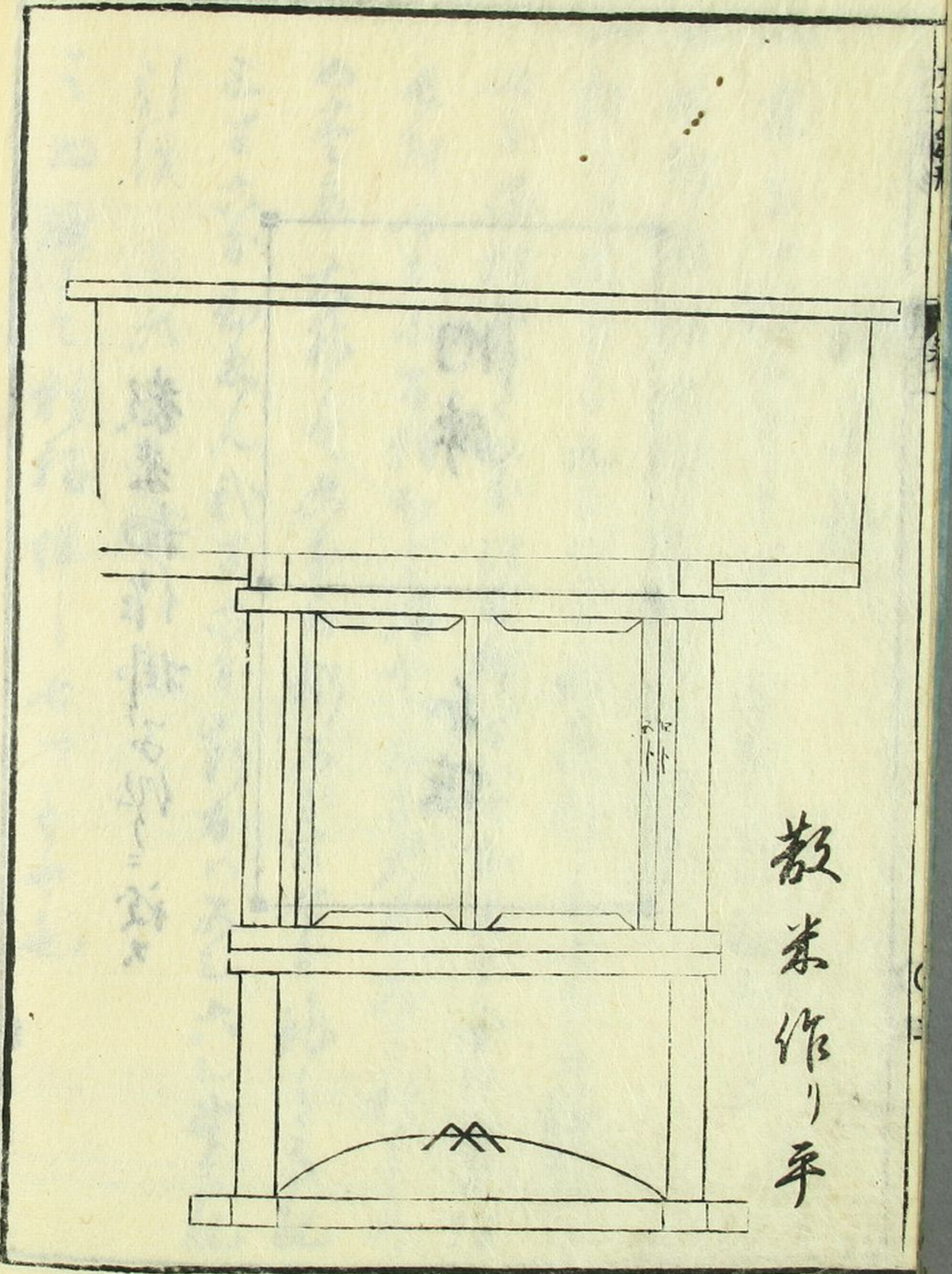
一間の幅の表の向柱は
 はまれの柱の面にて其
 中のりとろく向柱は
 はまれの柱の面にて其
 知念故又念毎
 一室の表の向柱は
 ろくを押しはらして
 縁を上げ上りとろく
 向柱の間の表の
 向柱は向柱の表の
 地を其の分長
 押おろす
 一板下の柱の間の表の
 一板下の柱の間の表の
 割のせり

大工雑形

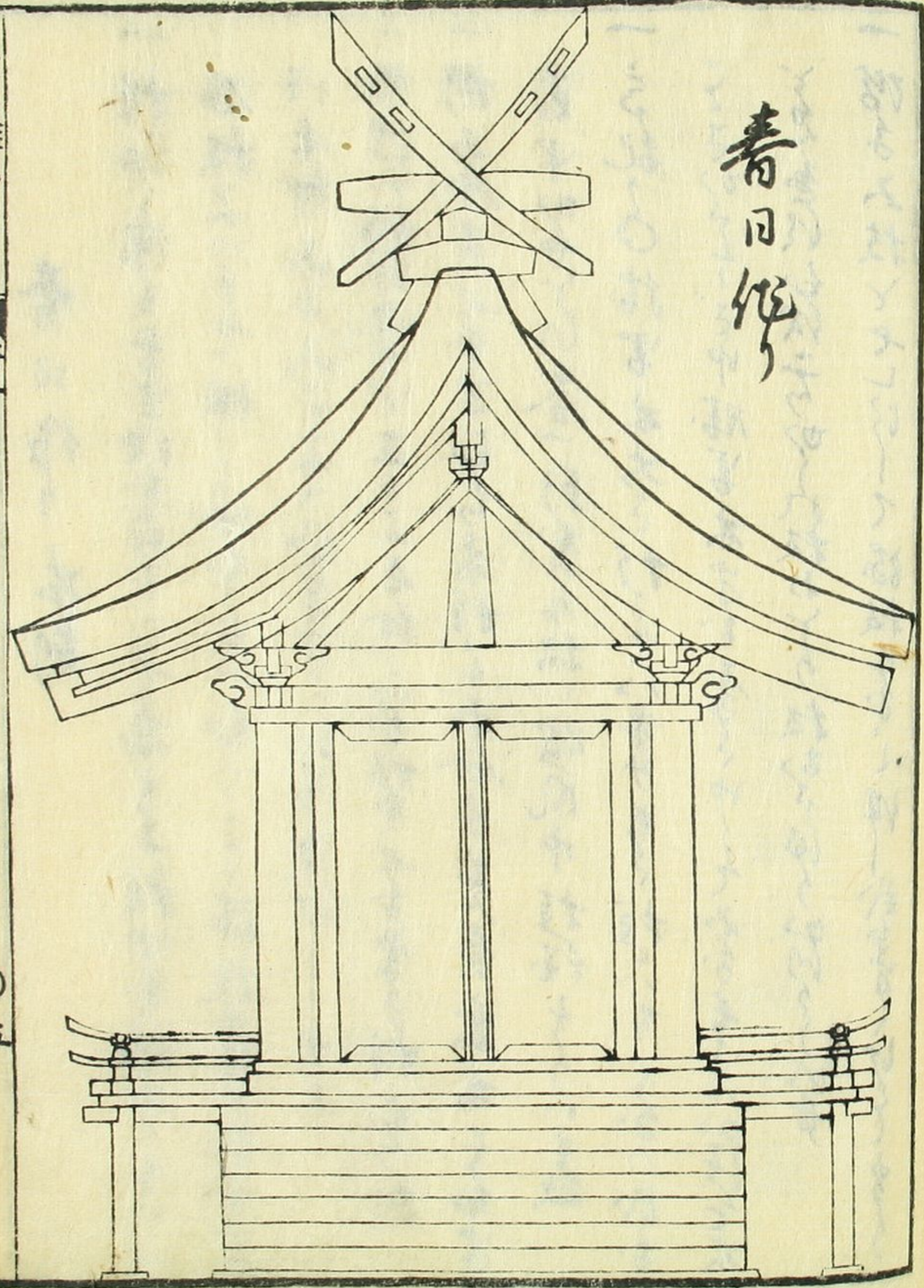
卷一



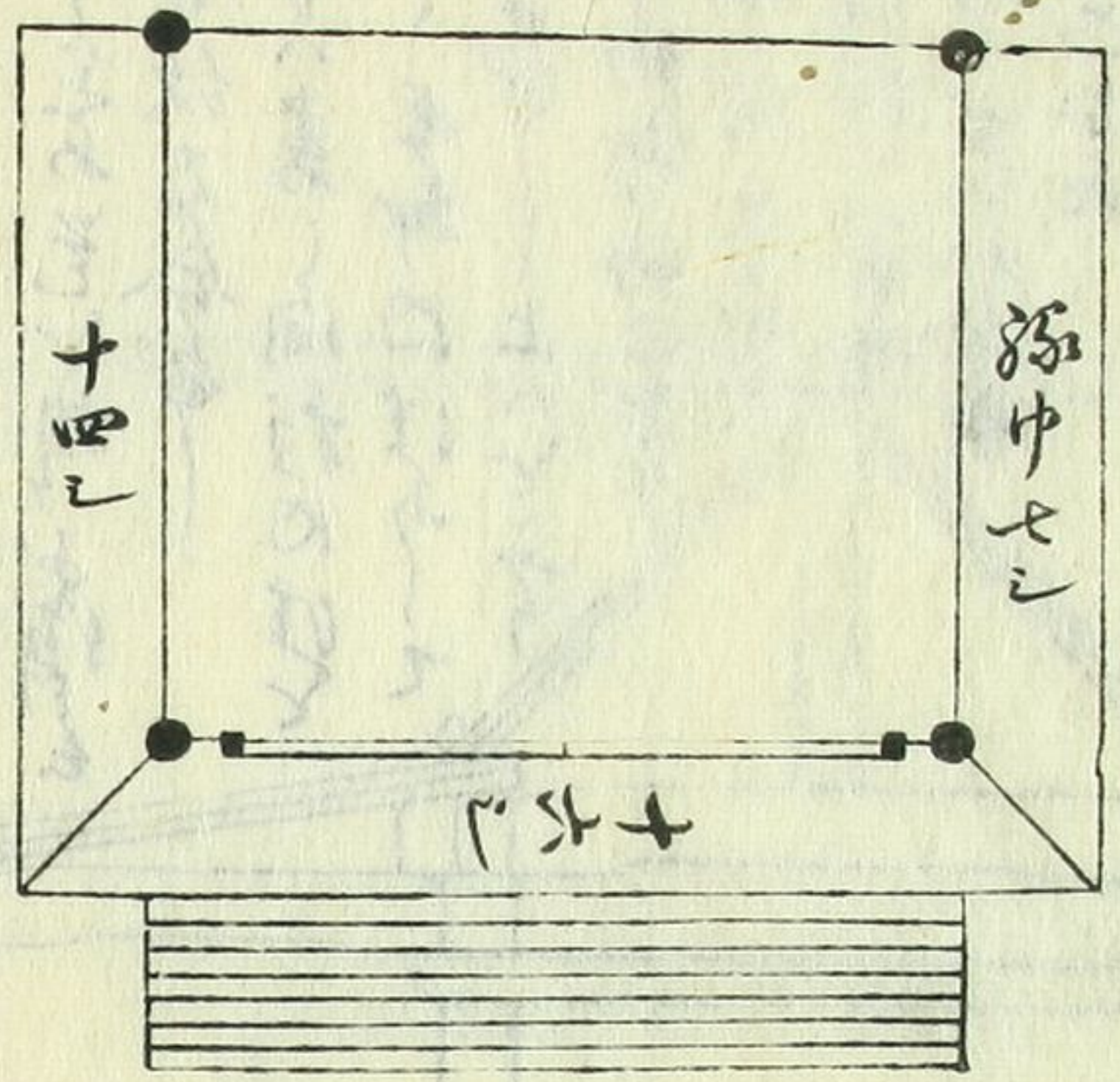
散末作り書



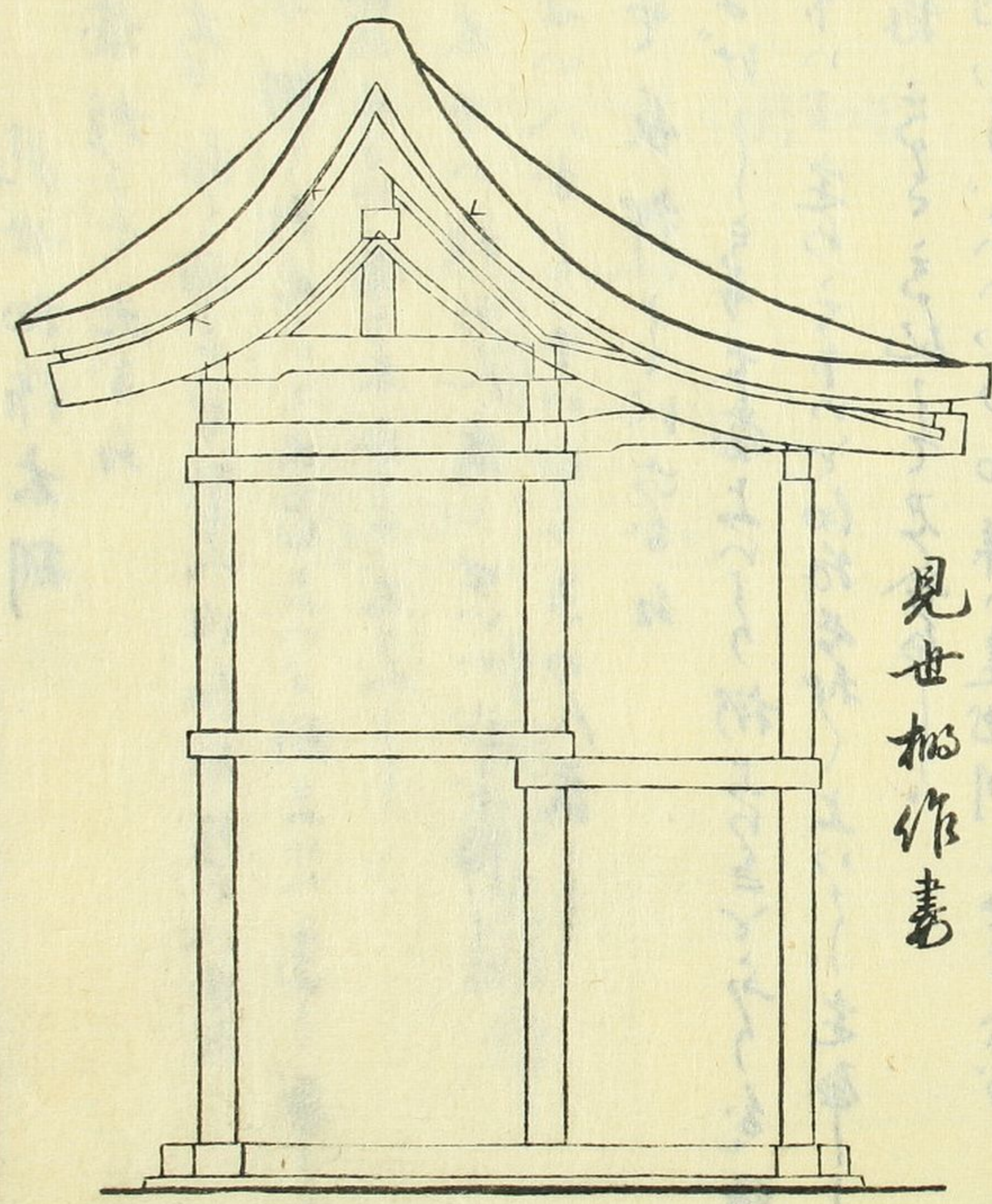
散末作り平



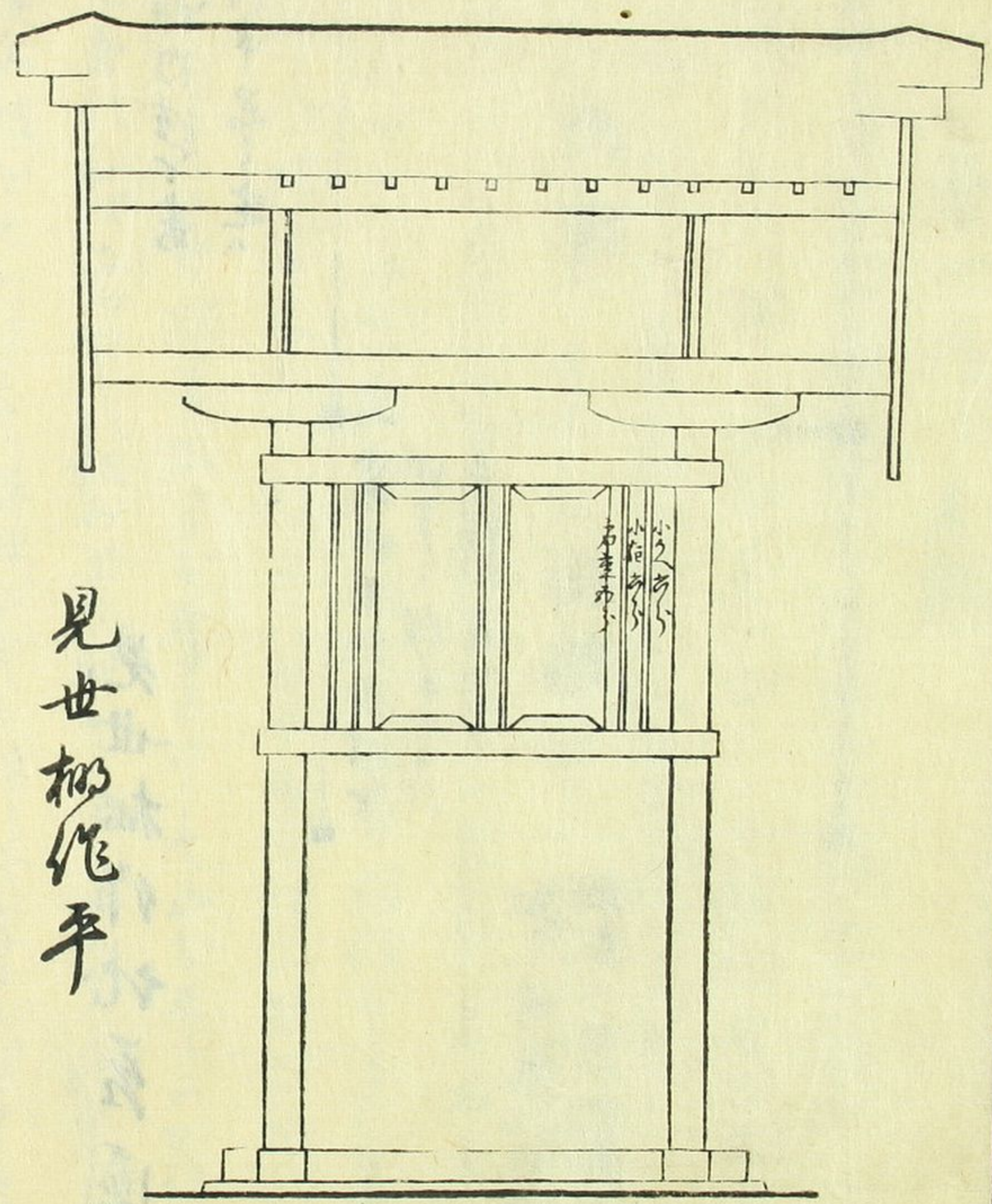
春日作



春日作
寺間紋



見世櫓作妻



見世櫓作平

小之
小之
小之
右幸也

見世松作本割

一 出巻板と九分板

二 柱太サ 向く間とすのどへ日向板板の八分板

三 高サ 板く想ふことと出巻上の板上の高く板

板の長さのあり来出とて高く

一 財木下の板ゆん落しとせいの式分板

一 板せい八分と下の板ちきゆん落し

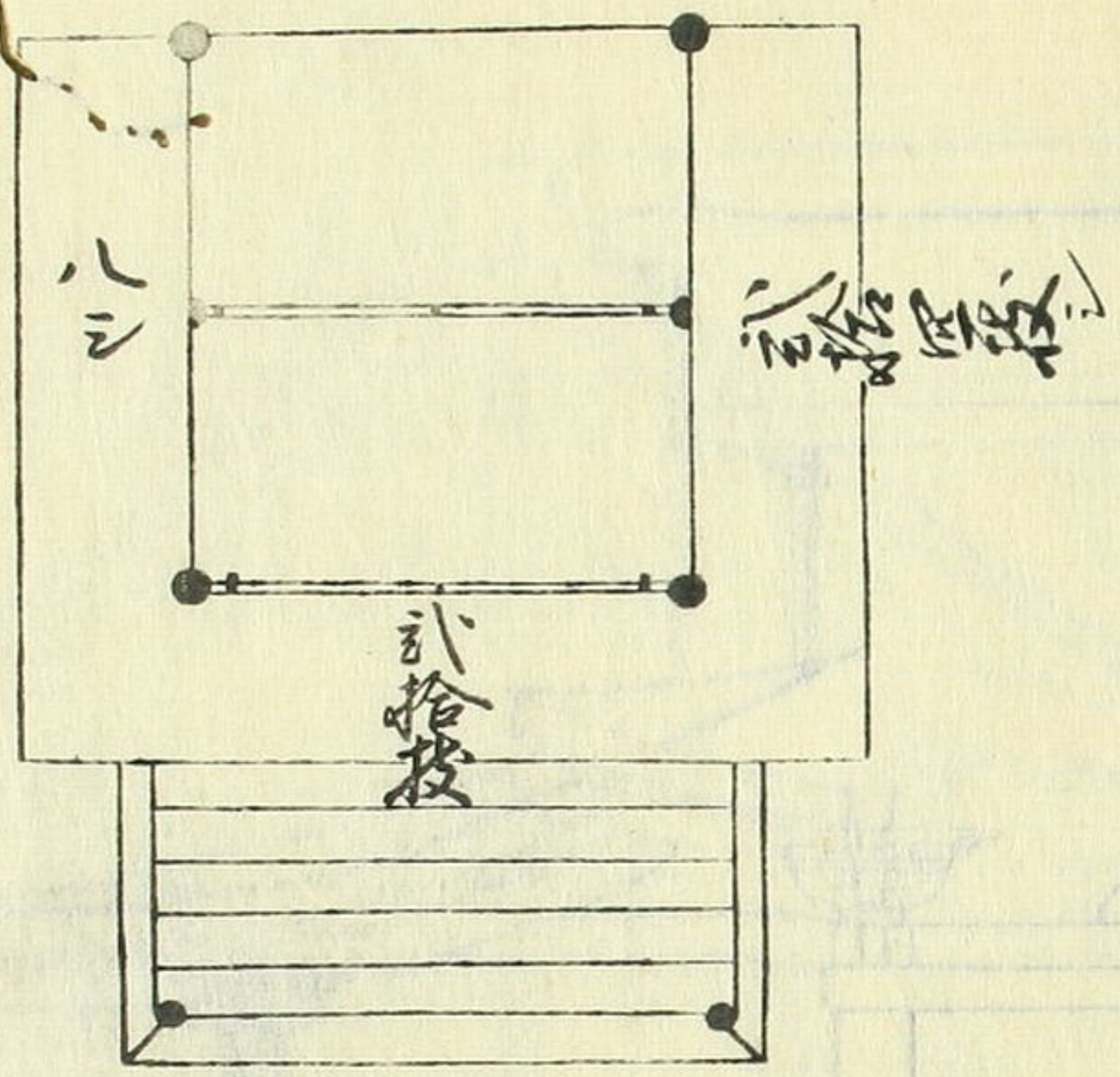
一 板長押とてに五分板

一 腰さげ 一 高サ七巻上のり 板上のとより高く板長

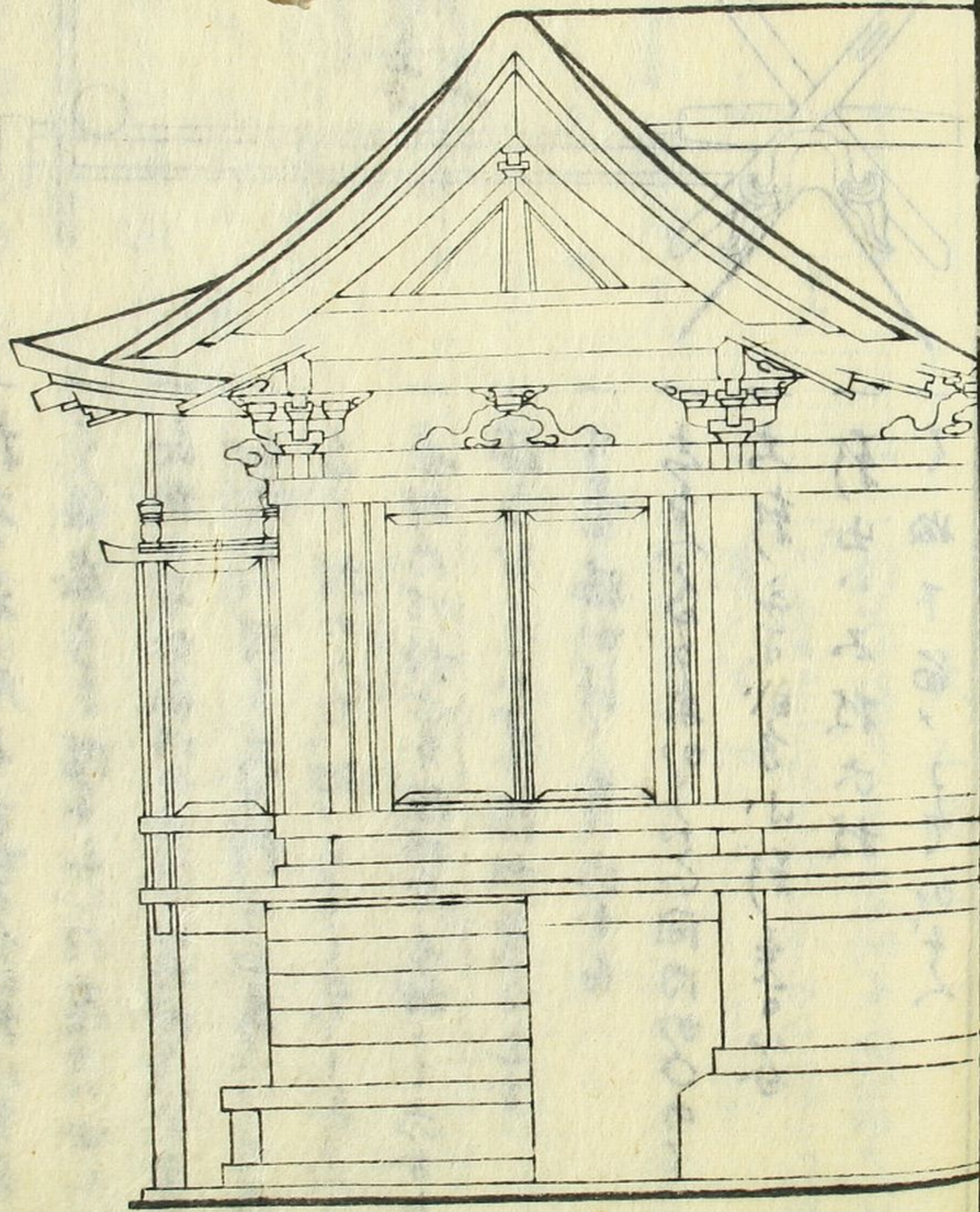
押下の一定のて下のと向板長押 上りて一定板

一 向板とて五分とて五分板

一 間ゆりて五分の向板の建地割く毎一定板

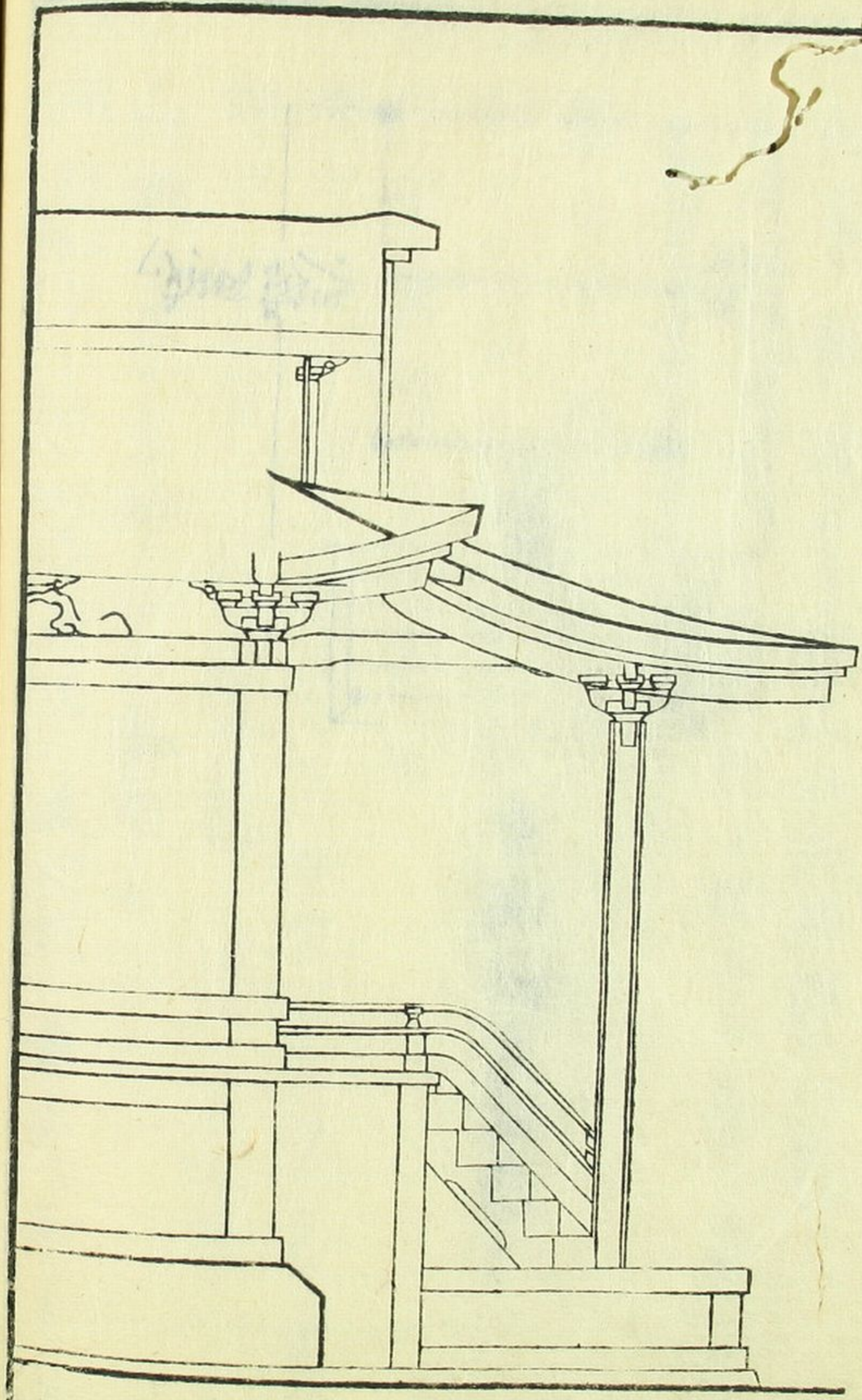


見世松作本割



木下
卷一

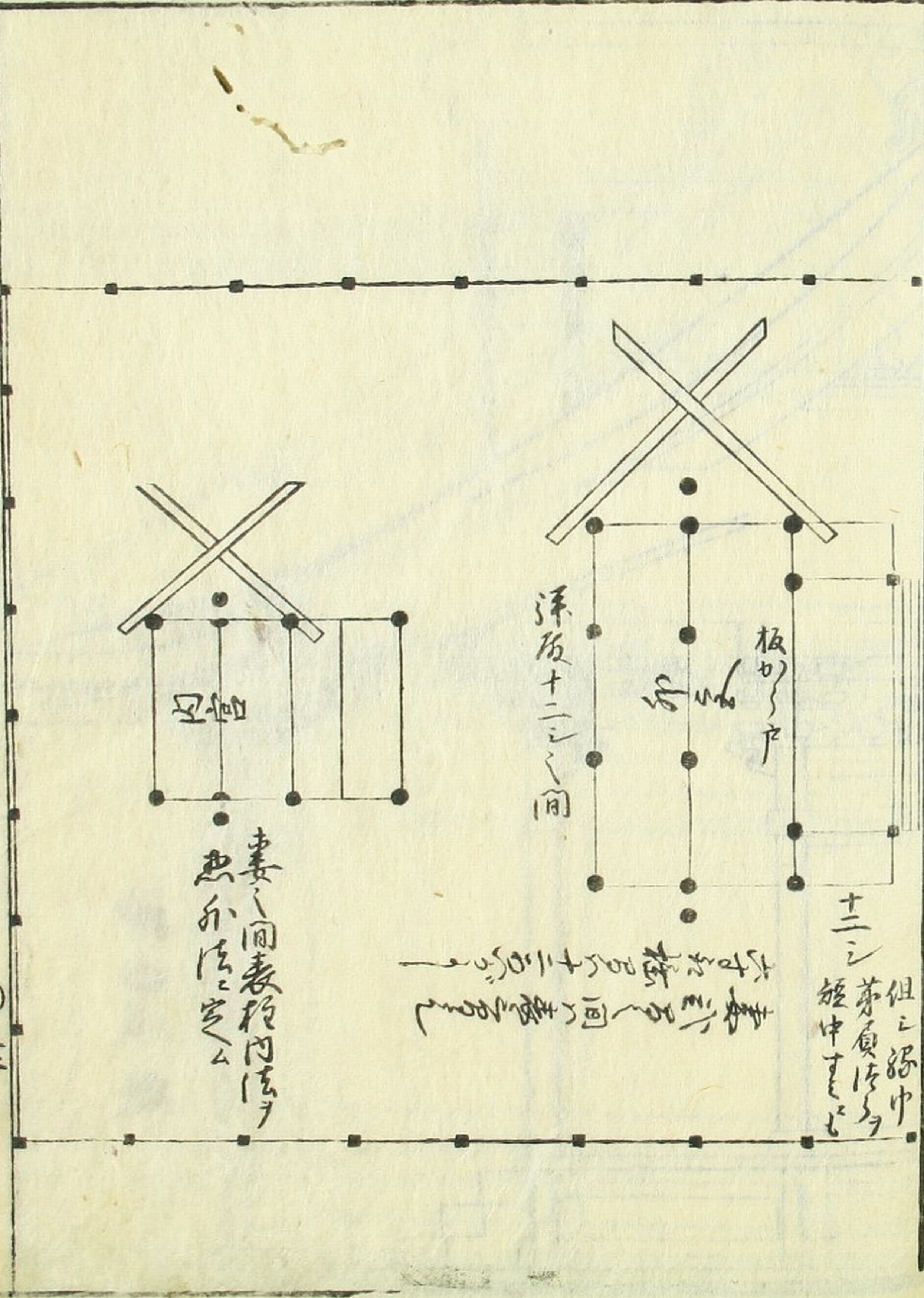
九



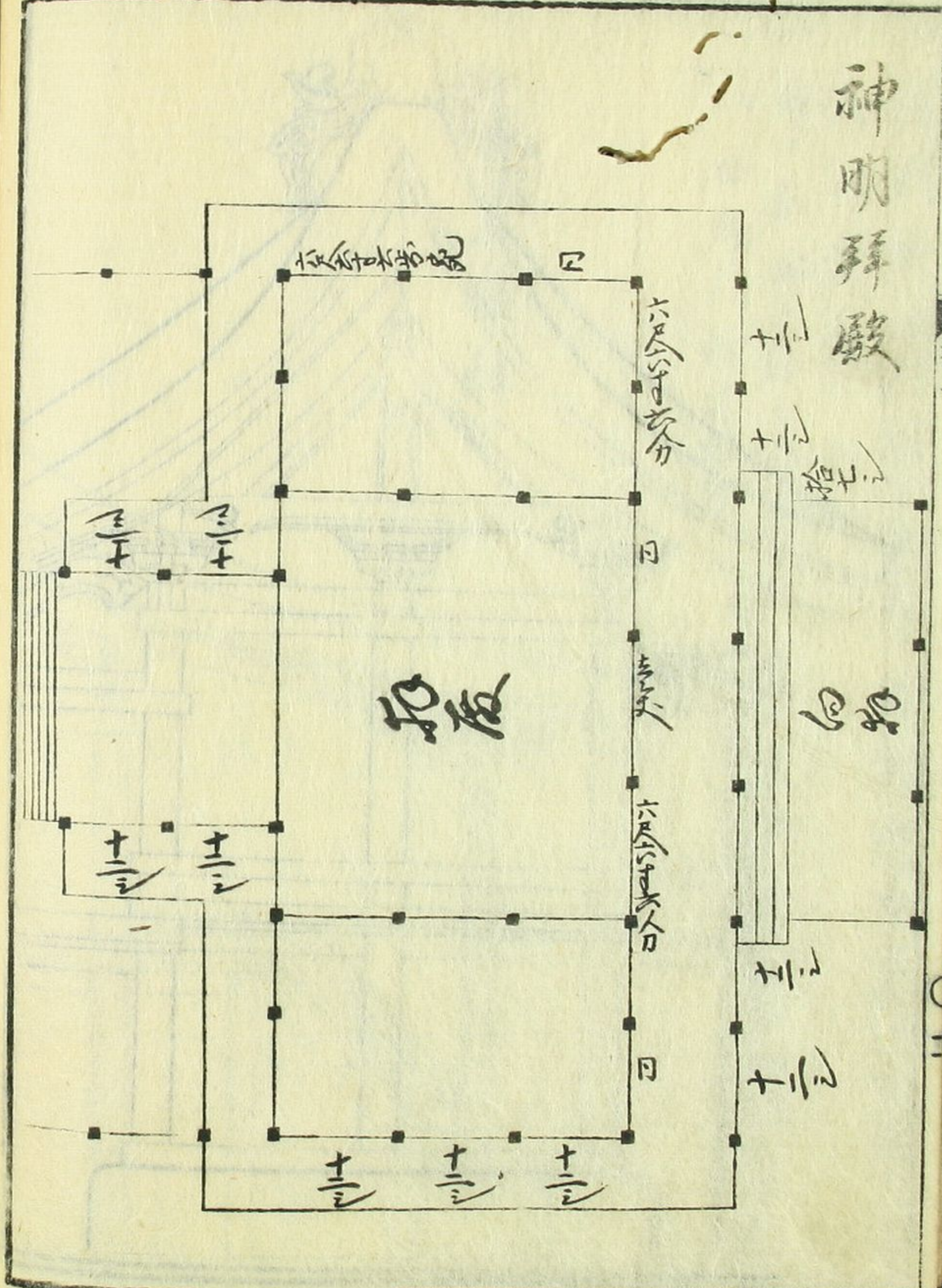
壹間社方社造

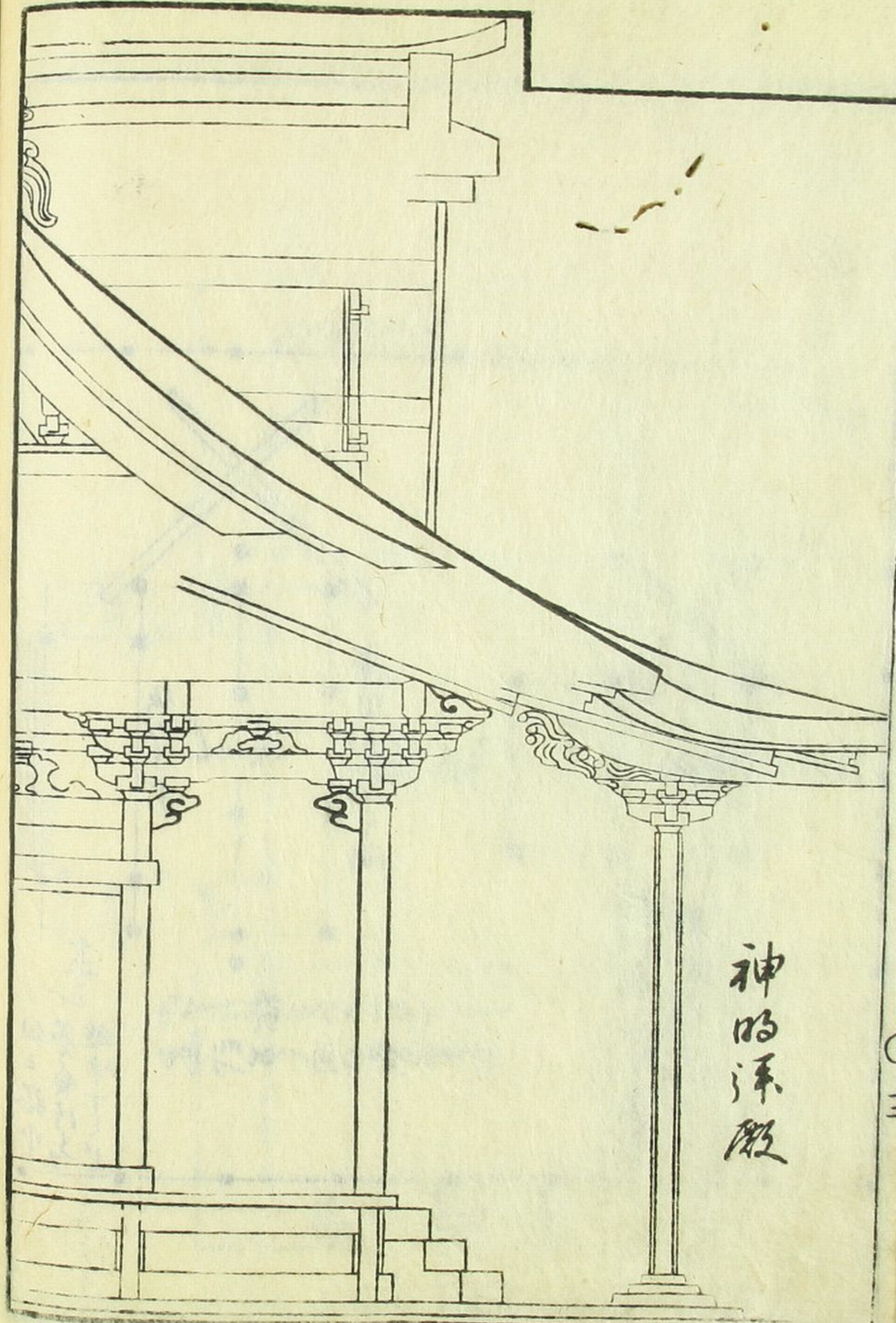
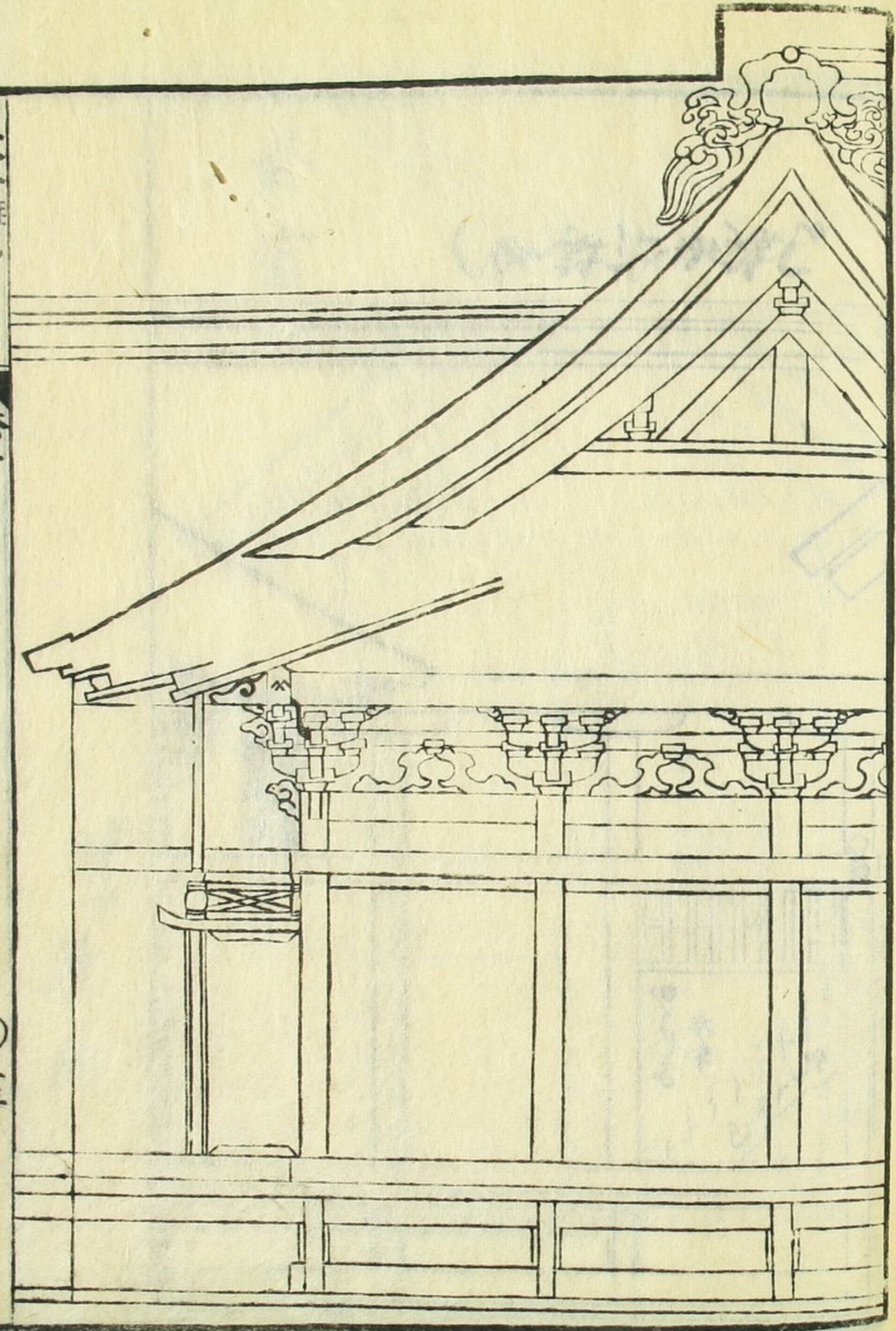
木下
卷一

九



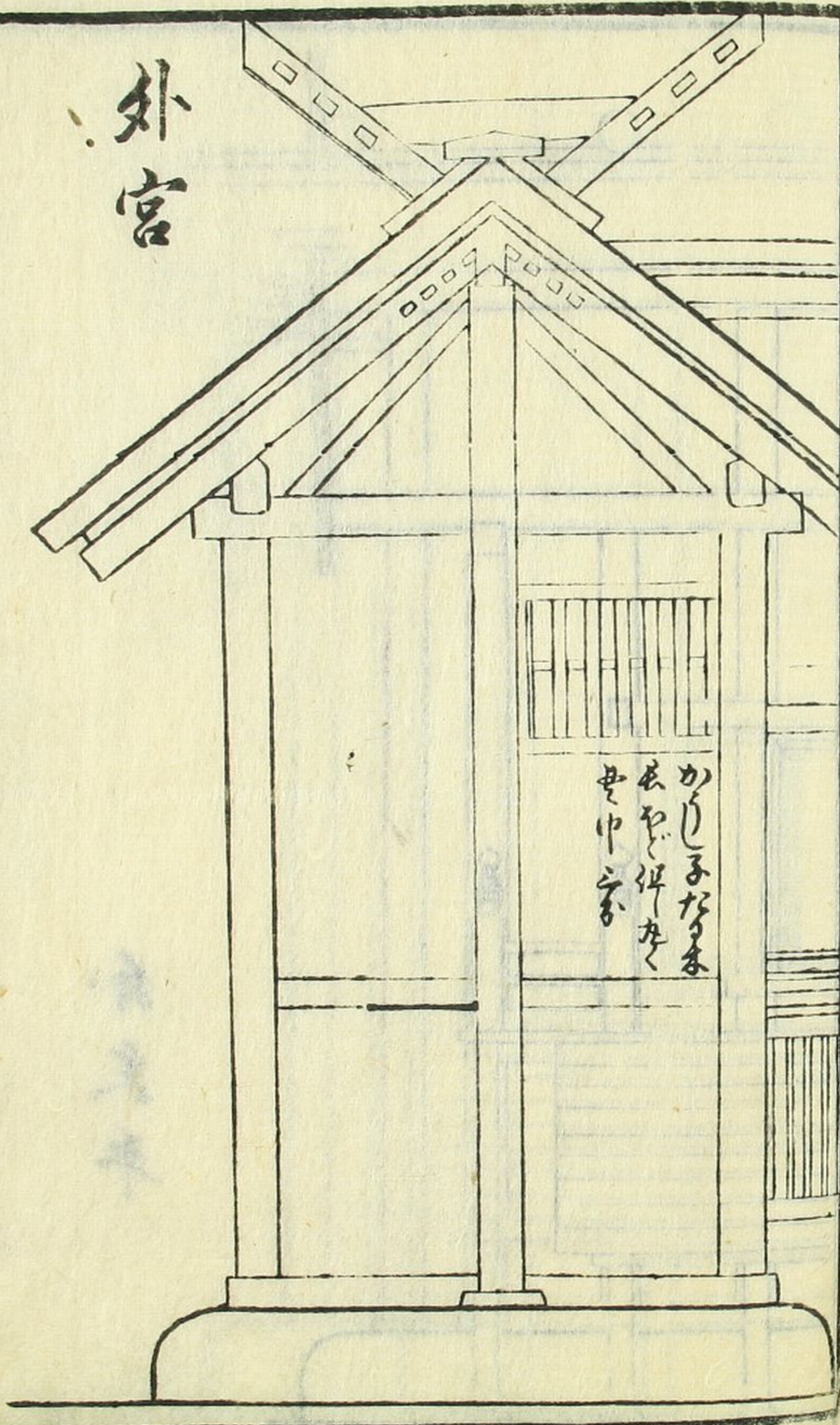
神明拜殿





神明深殿

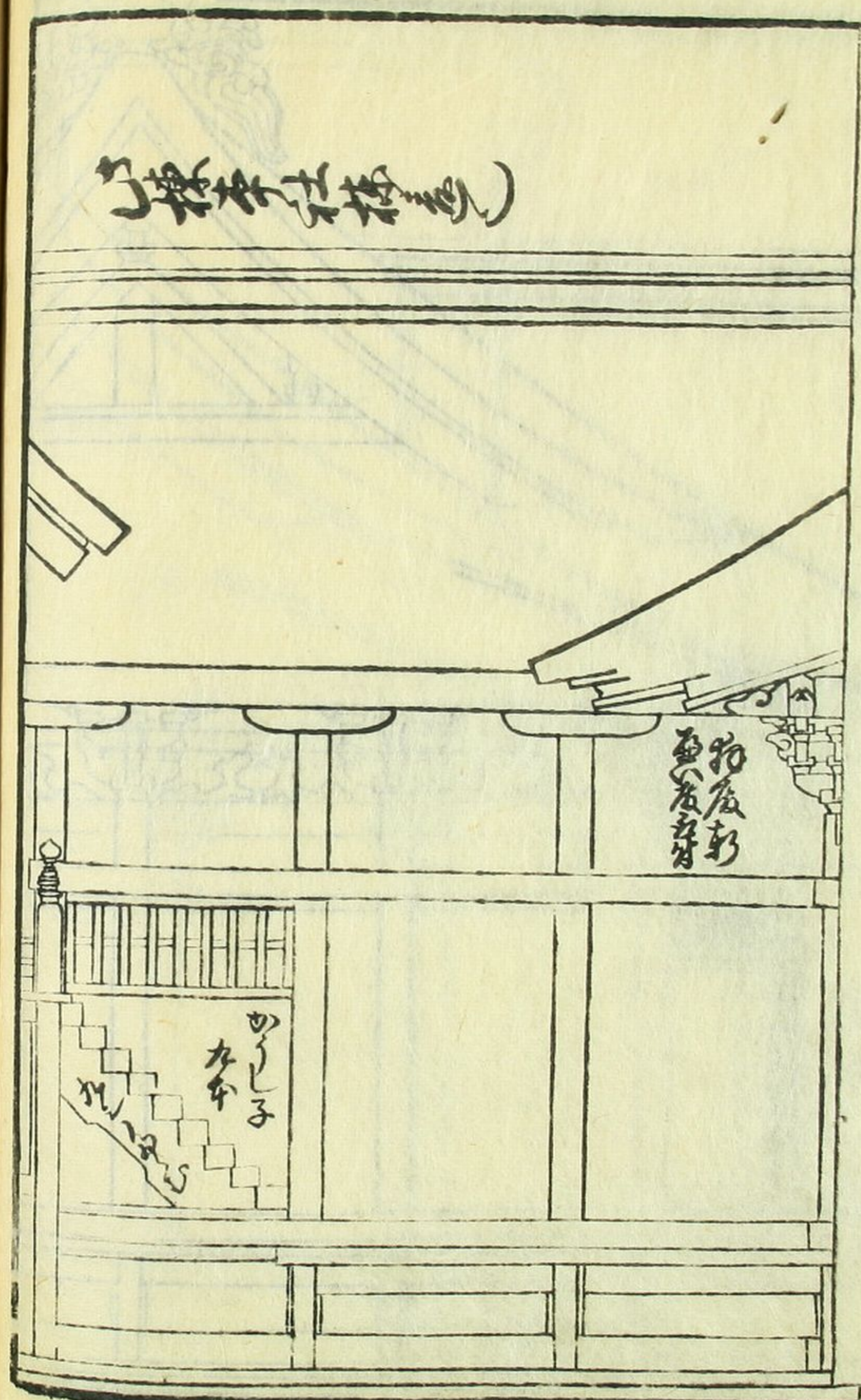
外宮



かじり子たき
長和の御
費中家

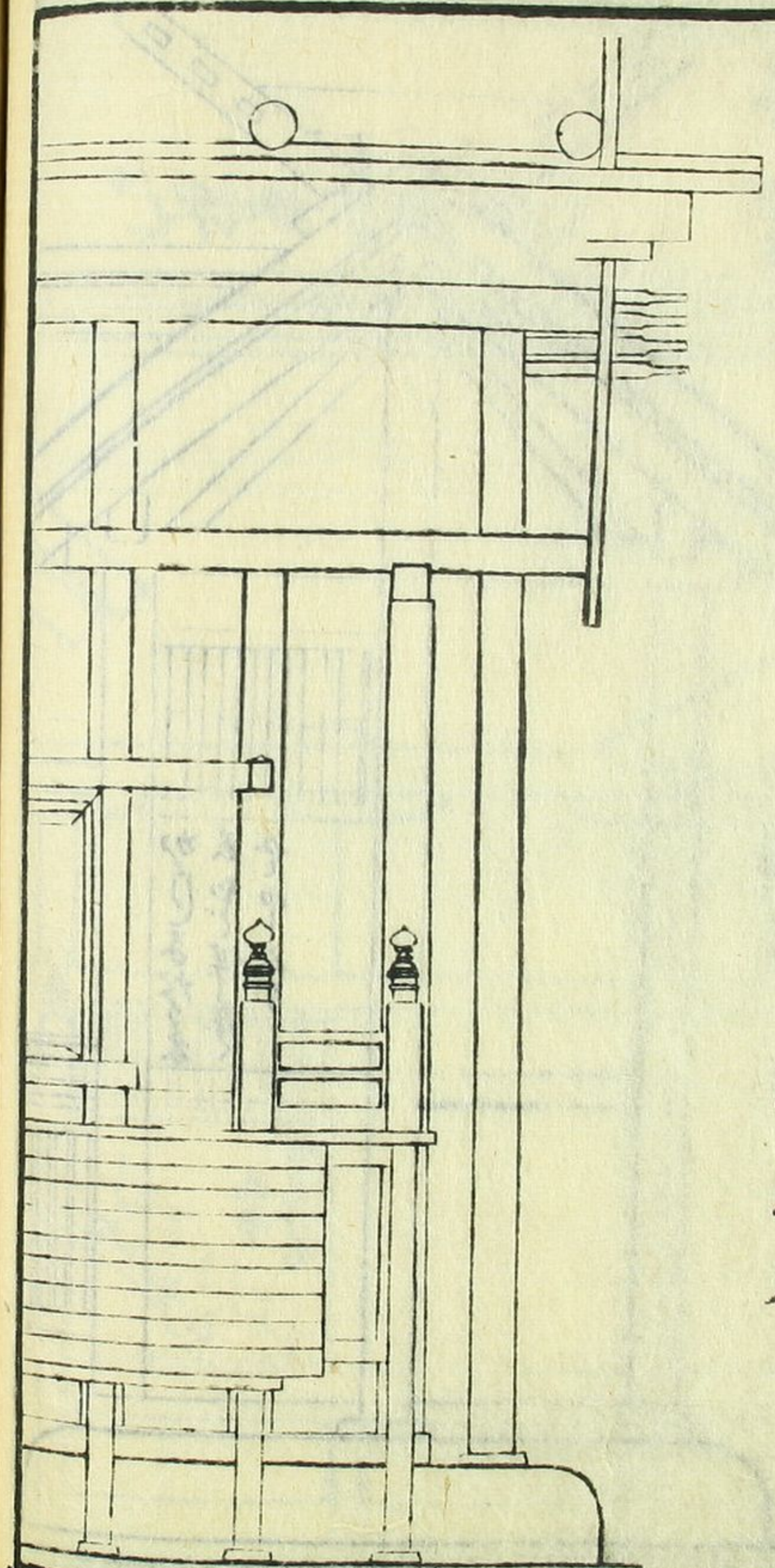
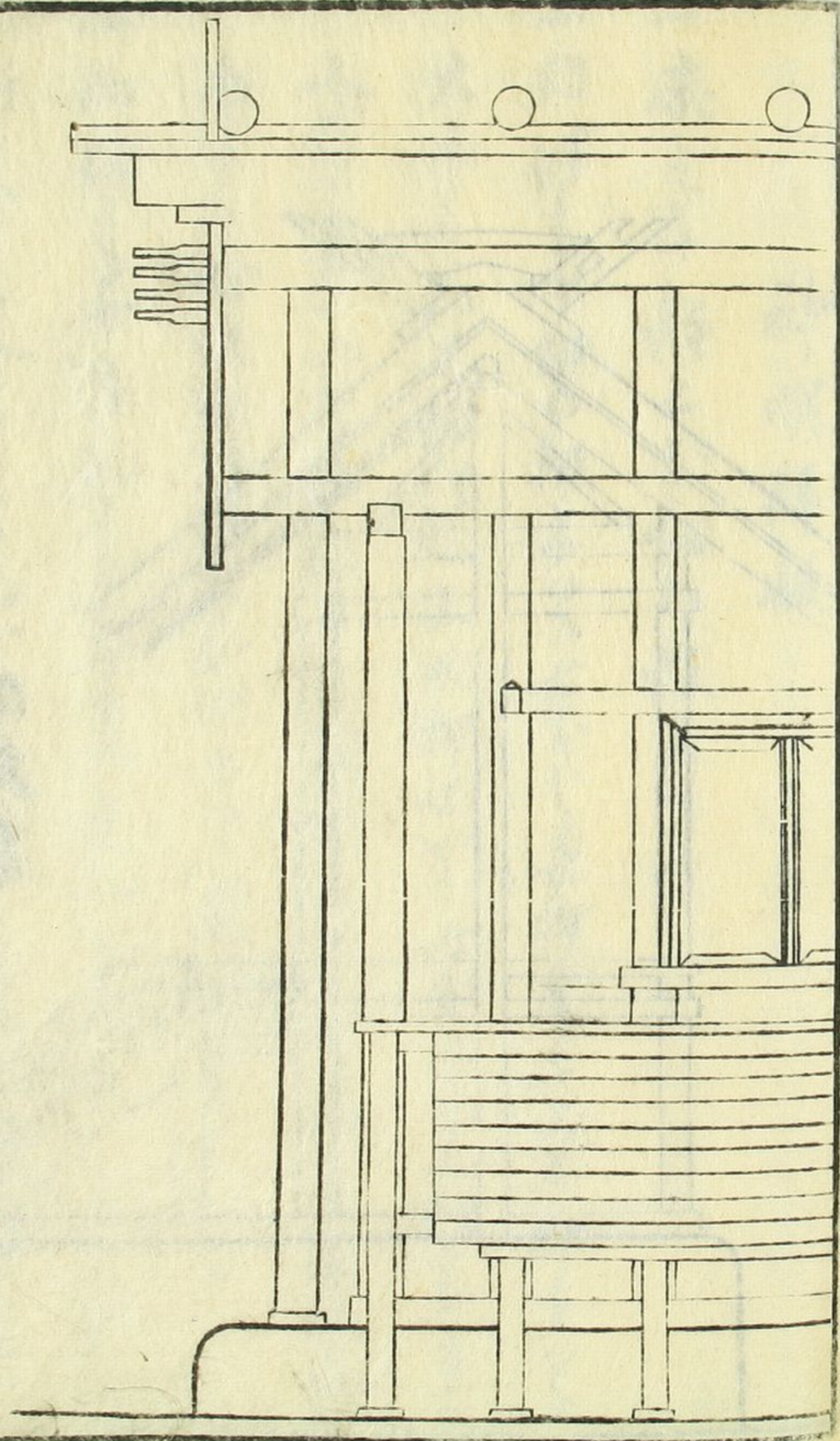
右
存
間

（内）
御
本
堂
の
内



物
取
の
形

かし
の
形



外定平

一 大板のいどまりの板めん四寸して

一 葎負六分板 たげの七分板にして

一 すうはらぬ板のて板の縁の板にしてきは板の板は九寸

一 縁板七分板は四寸五分板 一切の板厚五分板

一 和板のいどまりの板は七分板

一 板の九寸を折りたり

一 大板のいどまりの板は五分板

一 破風中毛サシ七分板の板は五分板

一 中毛板六寸七分板の板は五分板

一 ちさいのいどまりの板は五分板

一 和板のいどまりの板は五分板

一 中毛の板は五分板

一 葎板の六分板の板は五分板

一 ちさいのいどまりの板は五分板

一 地割のいどまりの板は五分板

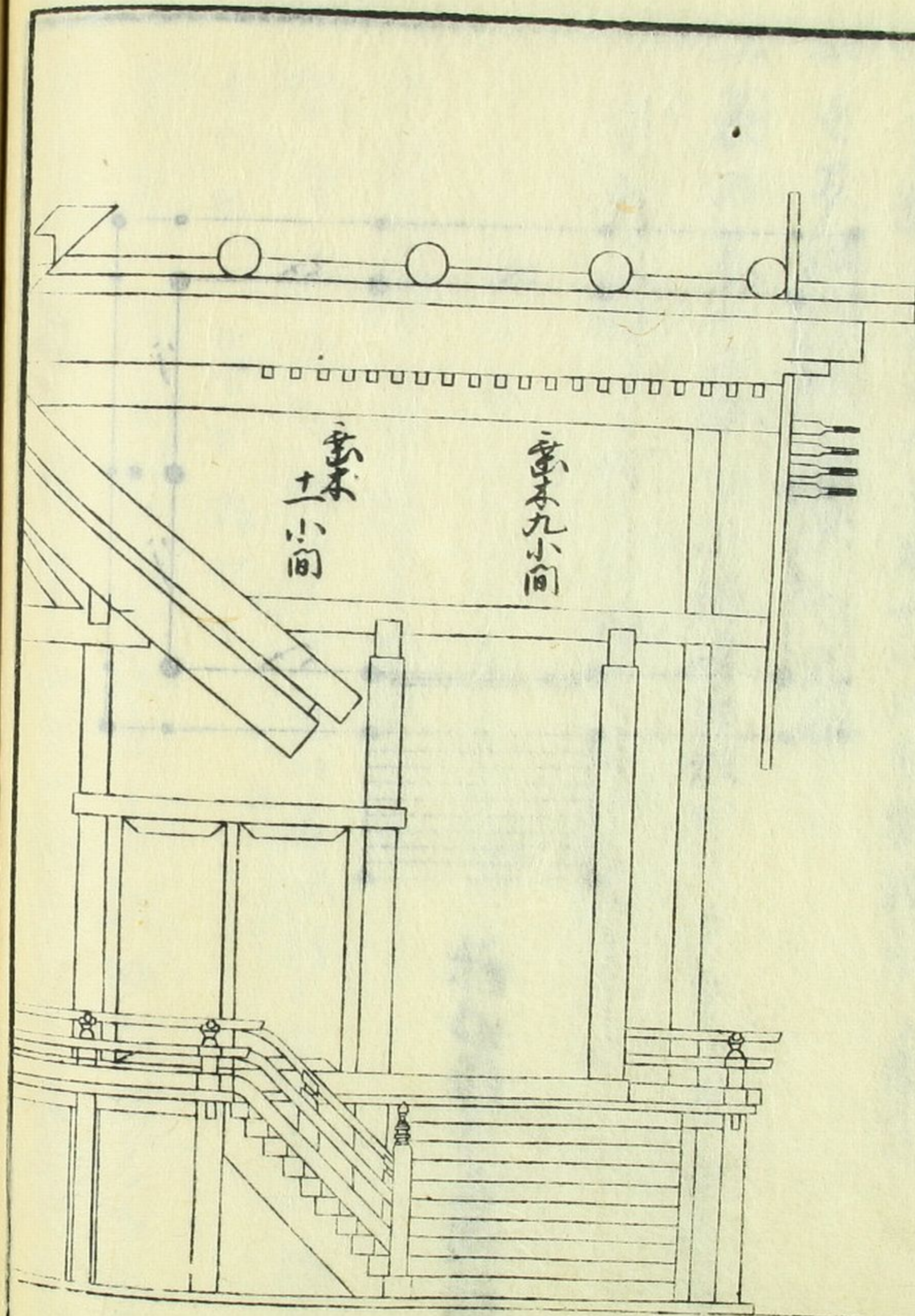
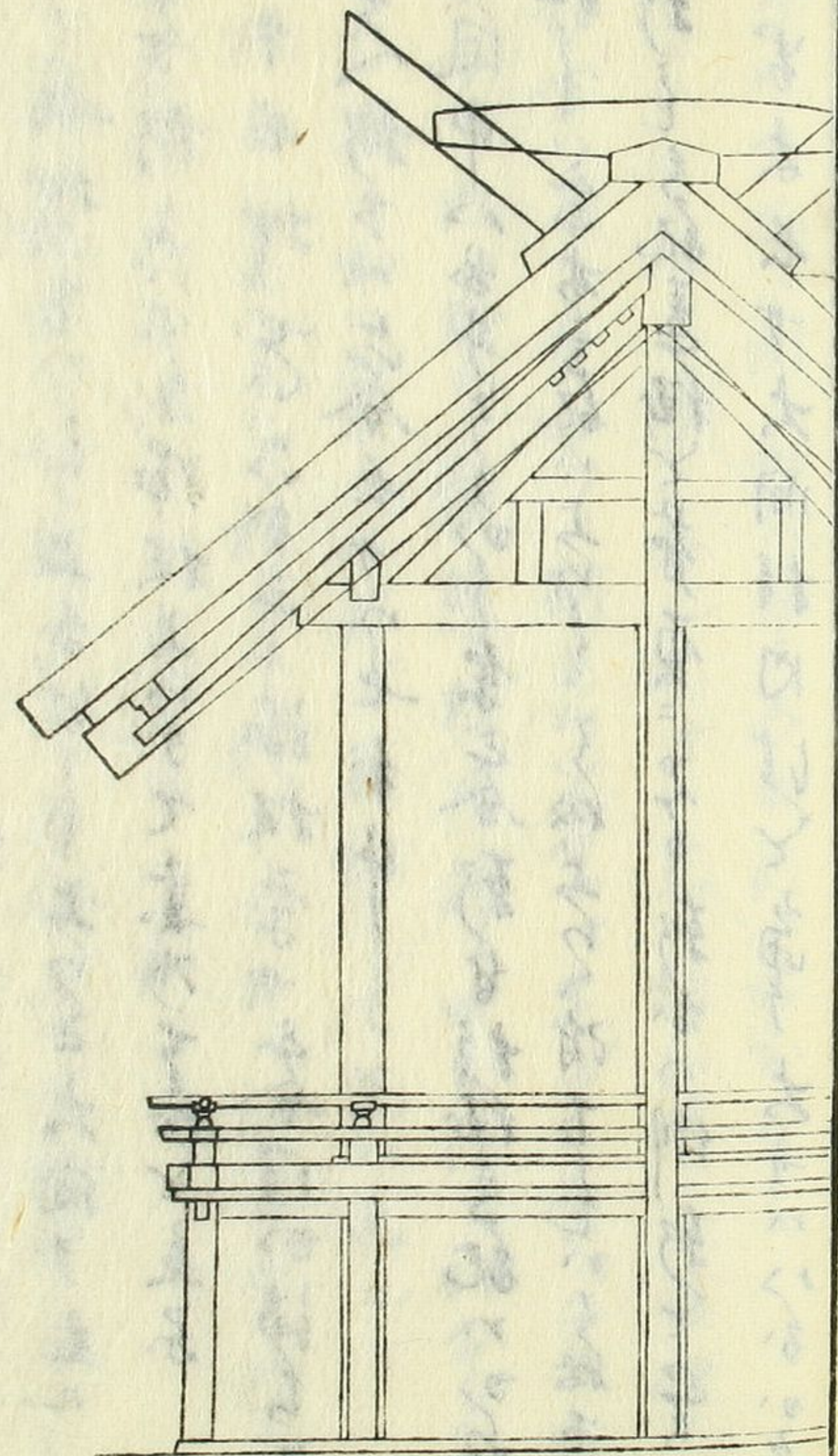
一 和板のいどまりの板は五分板

一 和板のいどまりの板は五分板

一 和板のいどまりの板は五分板

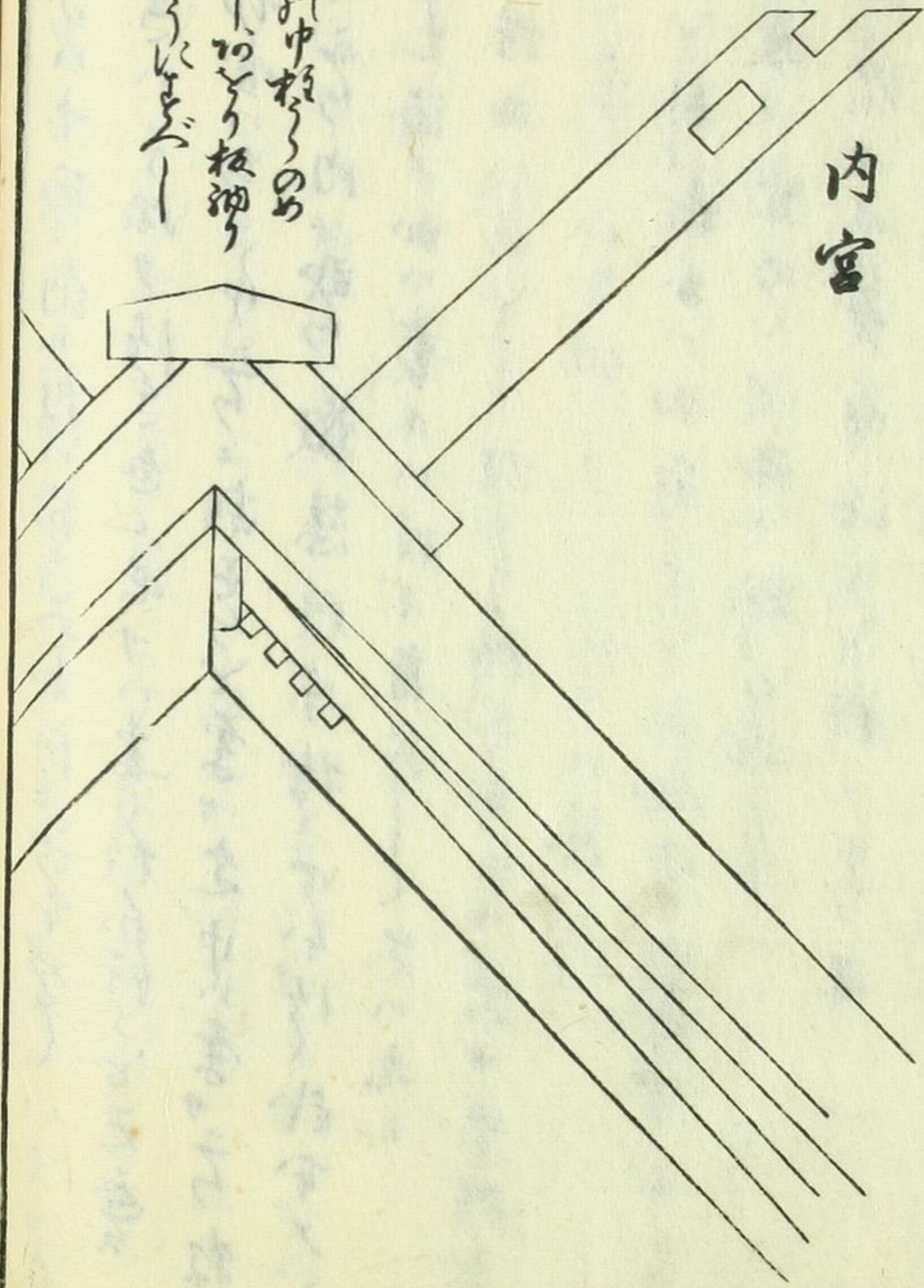
一 和板のいどまりの板は五分板

一 和板のいどまりの板は五分板

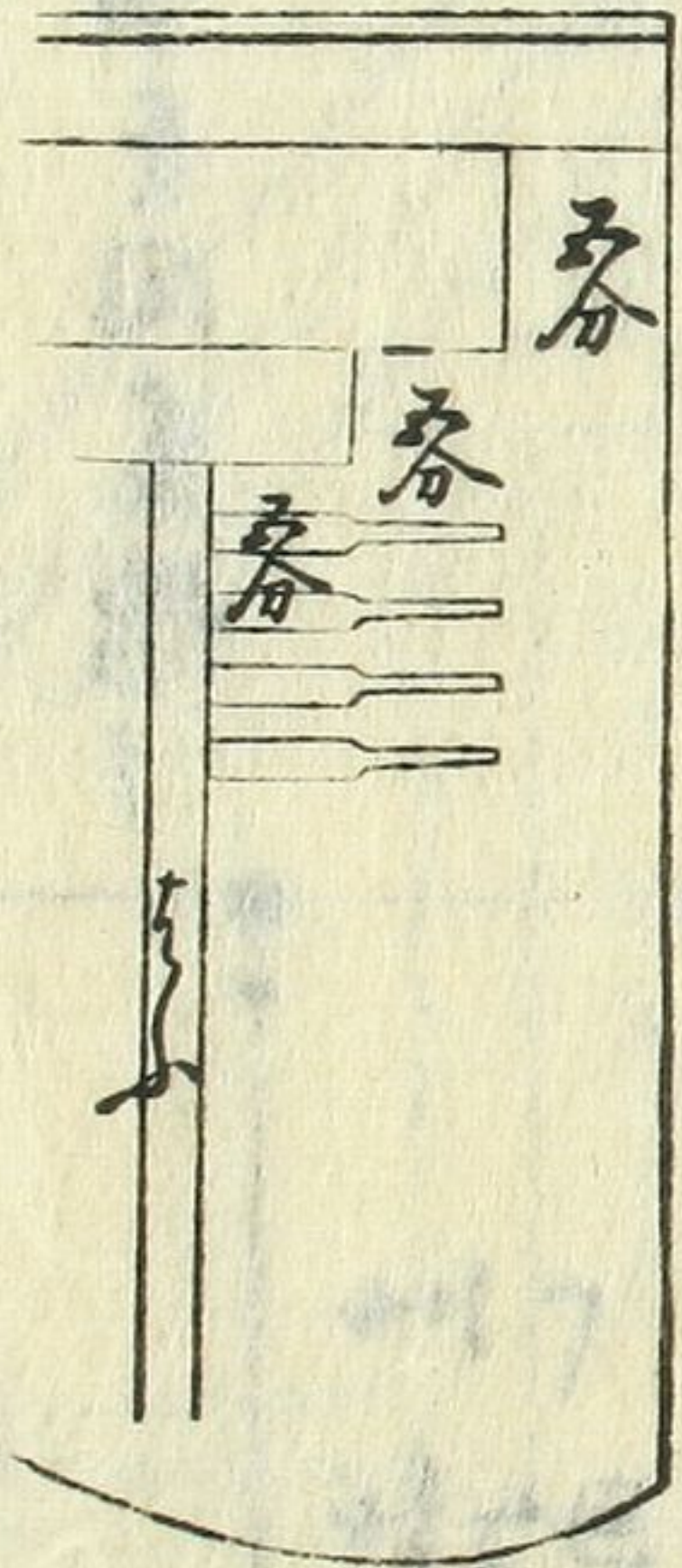


内宮

かゝりの中柱のあり
去りしつら板の
能くはらばら

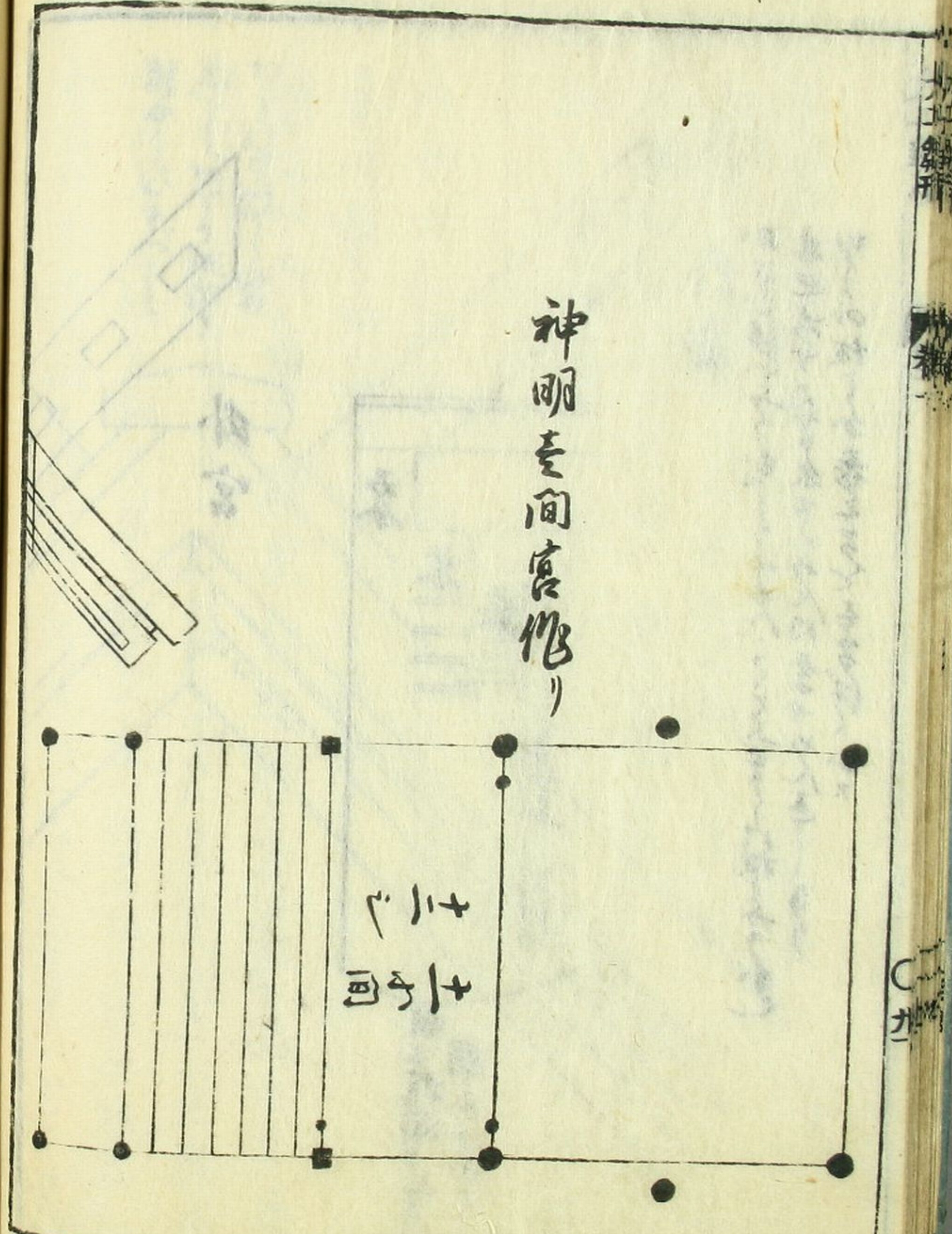
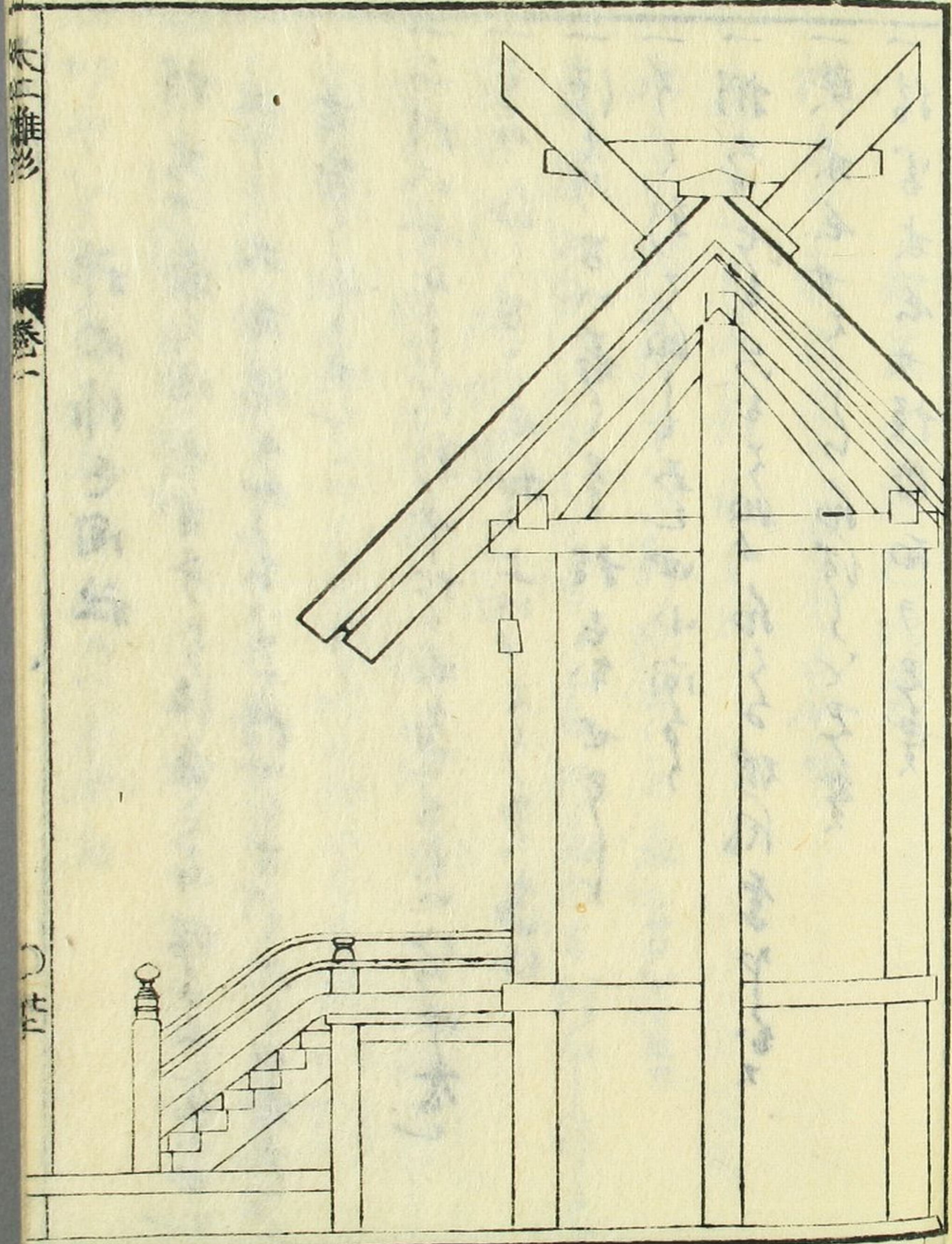


外宮



但し柱間ラニツ小
割エツオモ

かゝりの中柱のあり
本也去りしつら板の
かゝりの板をかきとらばらばら

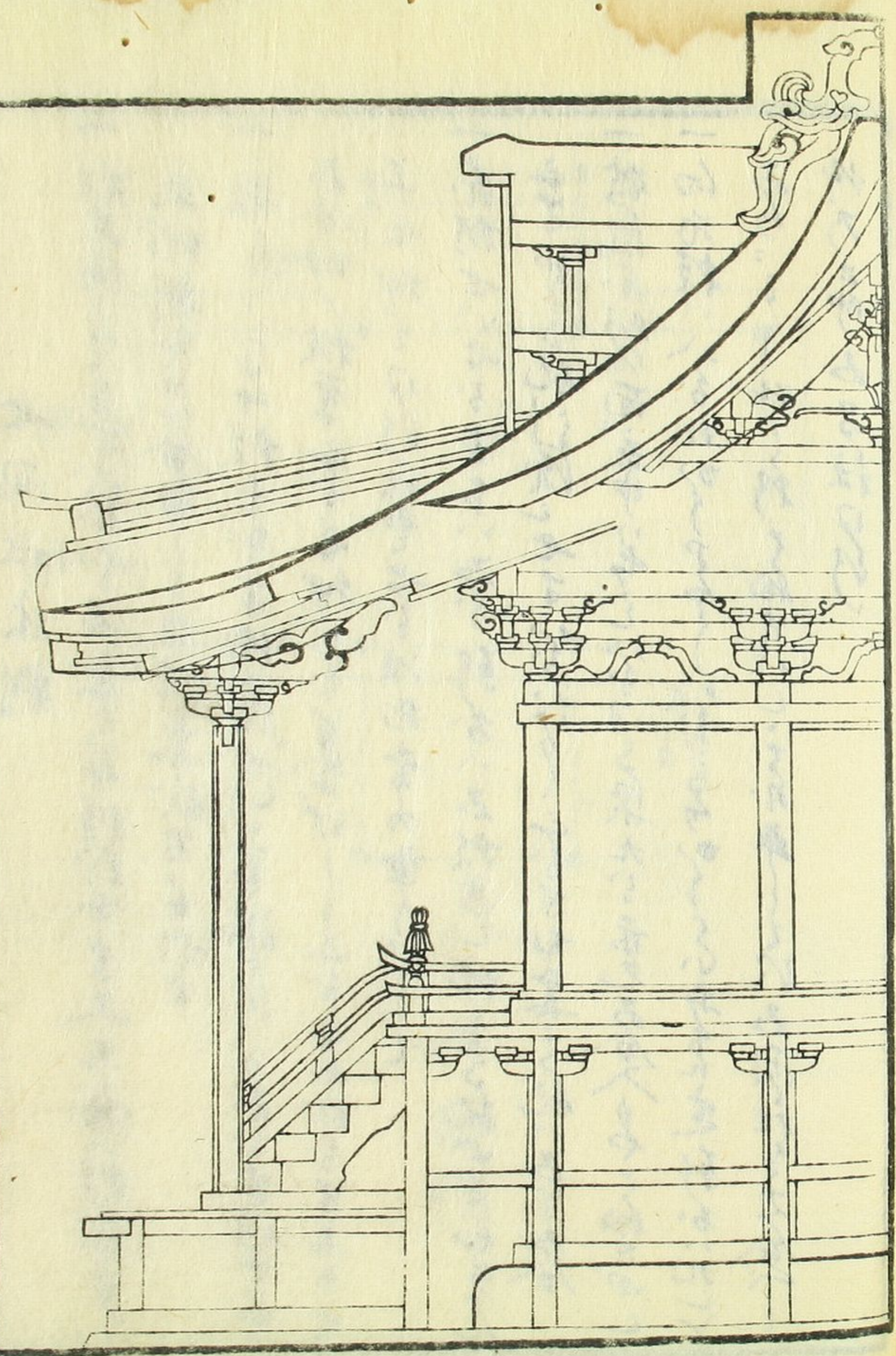
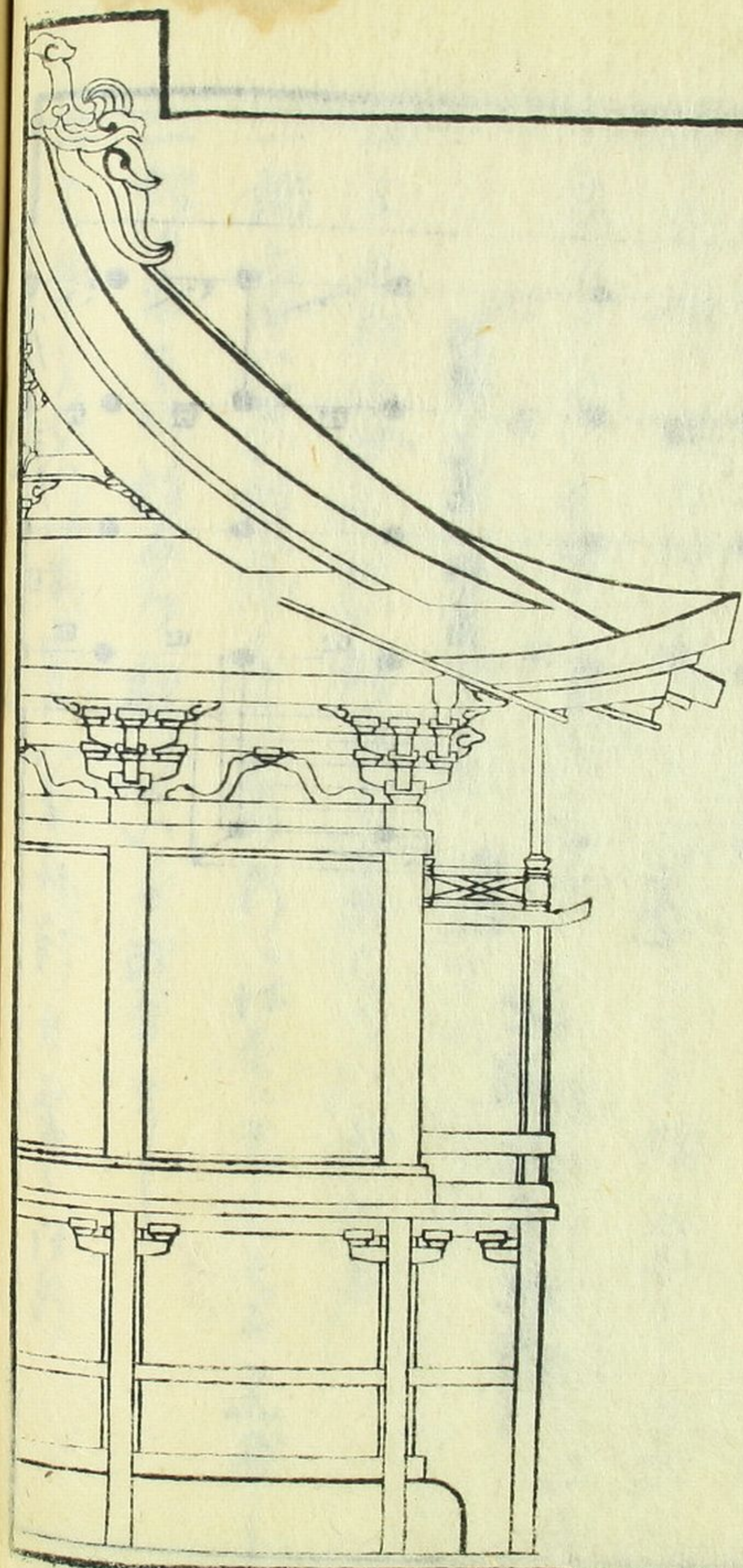


神明之間宮作リ

十二
画子十

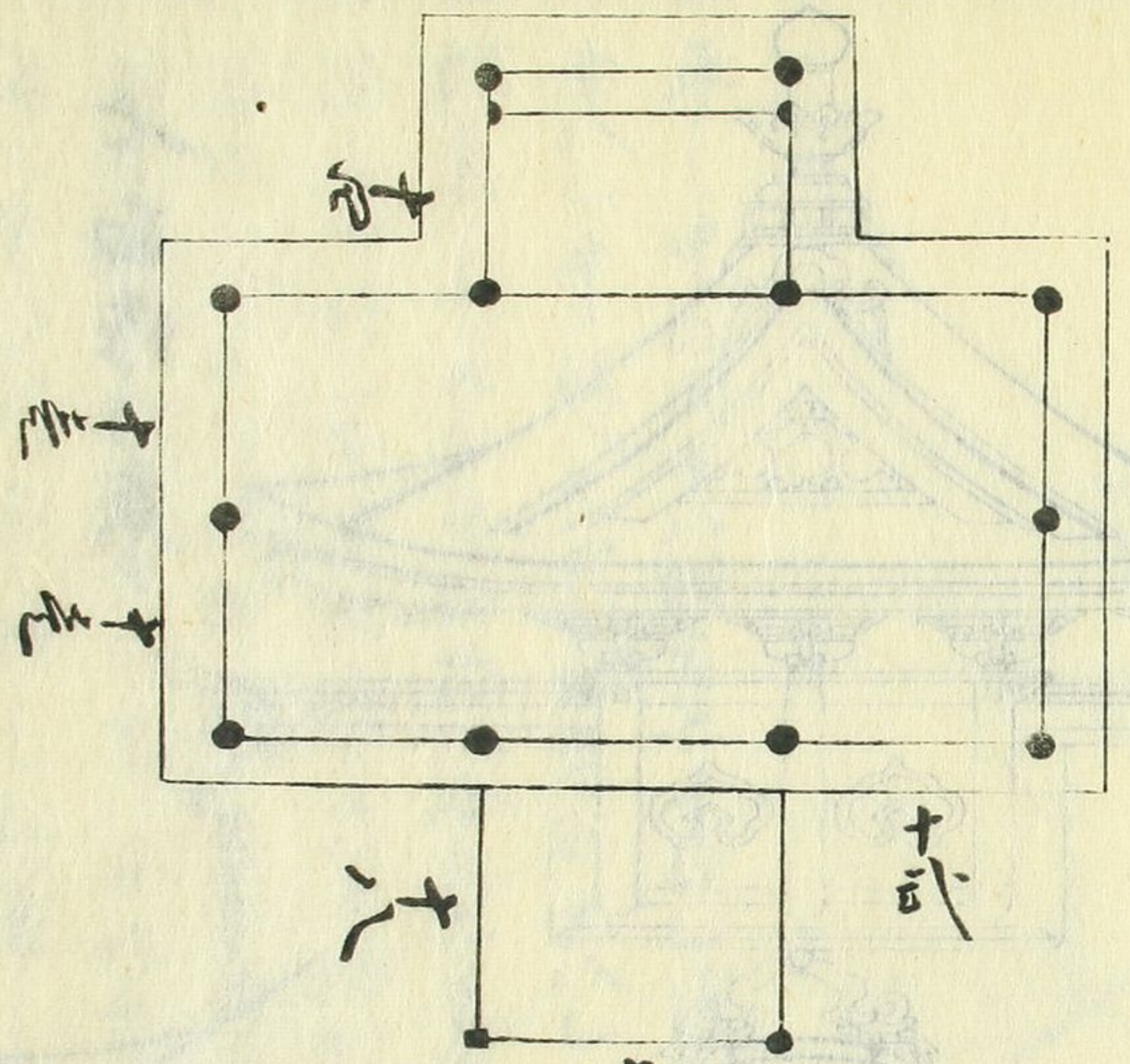
C
カ

七間社大社造



七間社本割

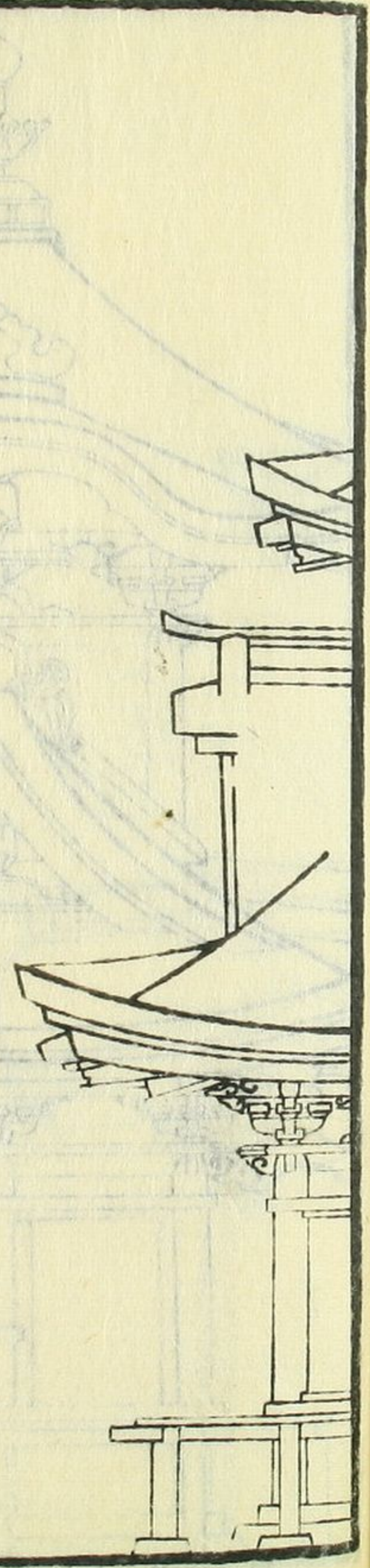
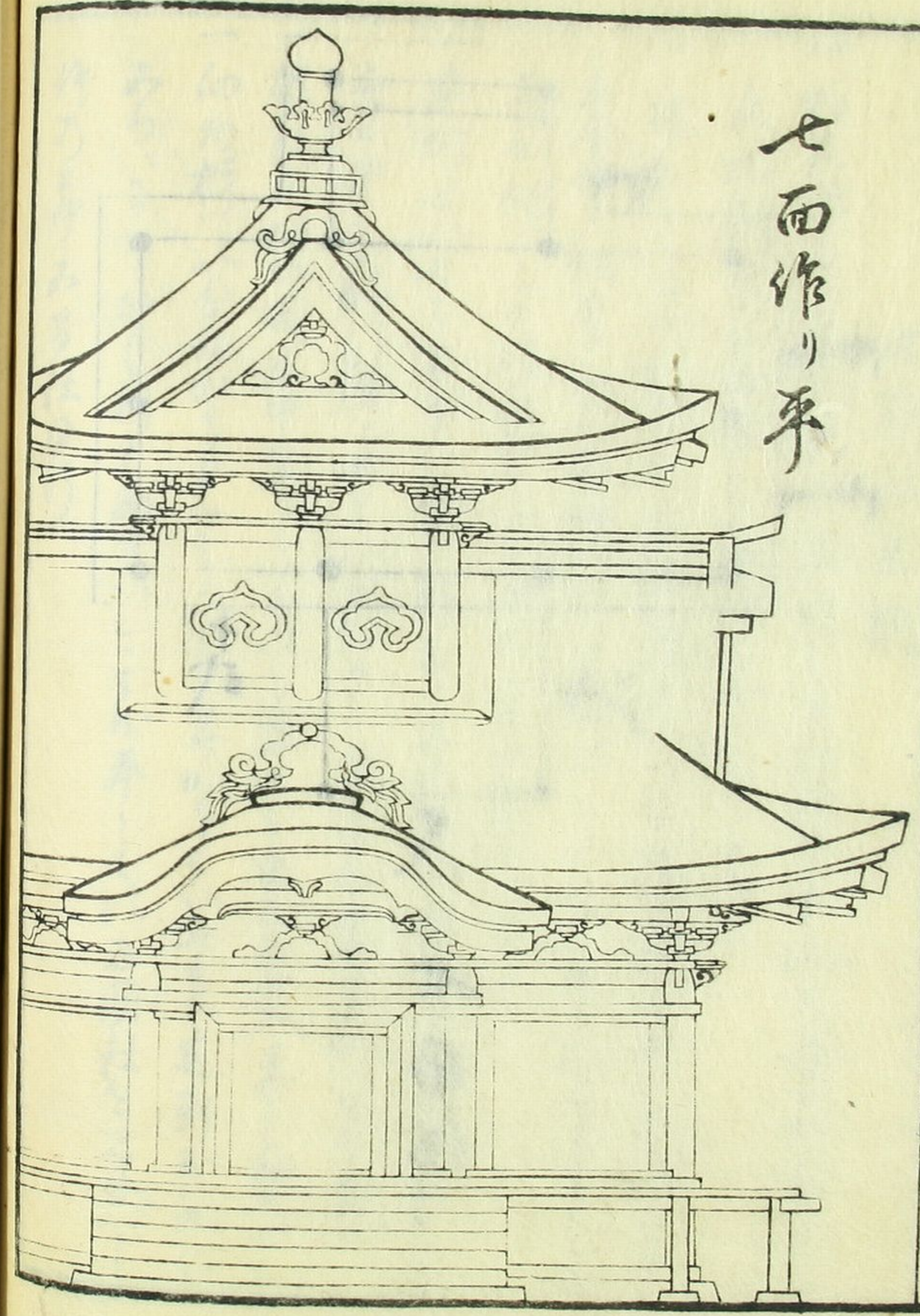
一 板大間とてさす武とては麻さす板武本又とて麻の板本也
 立地割と名合毎一内法武武万と六也
 一 麻さすさす板本本也板武さすさす麻さすさす麻さす
 五分切ノ板厚さす板厚さす板厚さす板厚さす板厚さす
 上長押と日形板也七も注物常の意なりとして
 一 板武さす七もさす七もさす七もさす七もさす七もさす
 一 板凡板の面立中い長さ五分はさす板武さす板武さす
 一 白地板ハ八分板かすさす五分はさす五分はさす五分はさす
 一 ありさすり板も板も板も板も板も板も板も板も板も
 一 板乃事乃事乃事乃事乃事乃事乃事乃事乃事乃事乃事



六 七面地

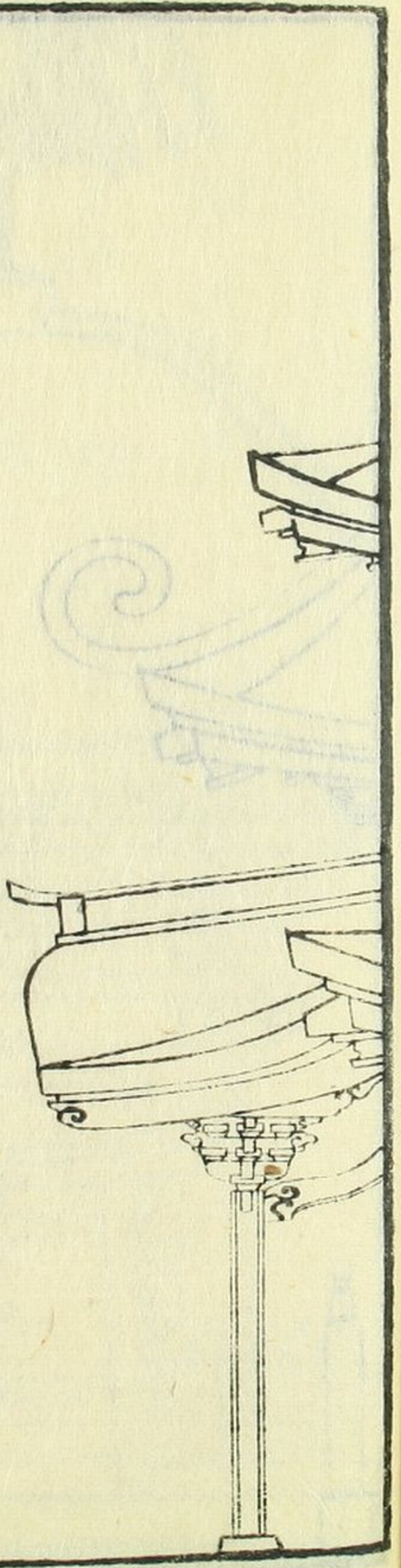
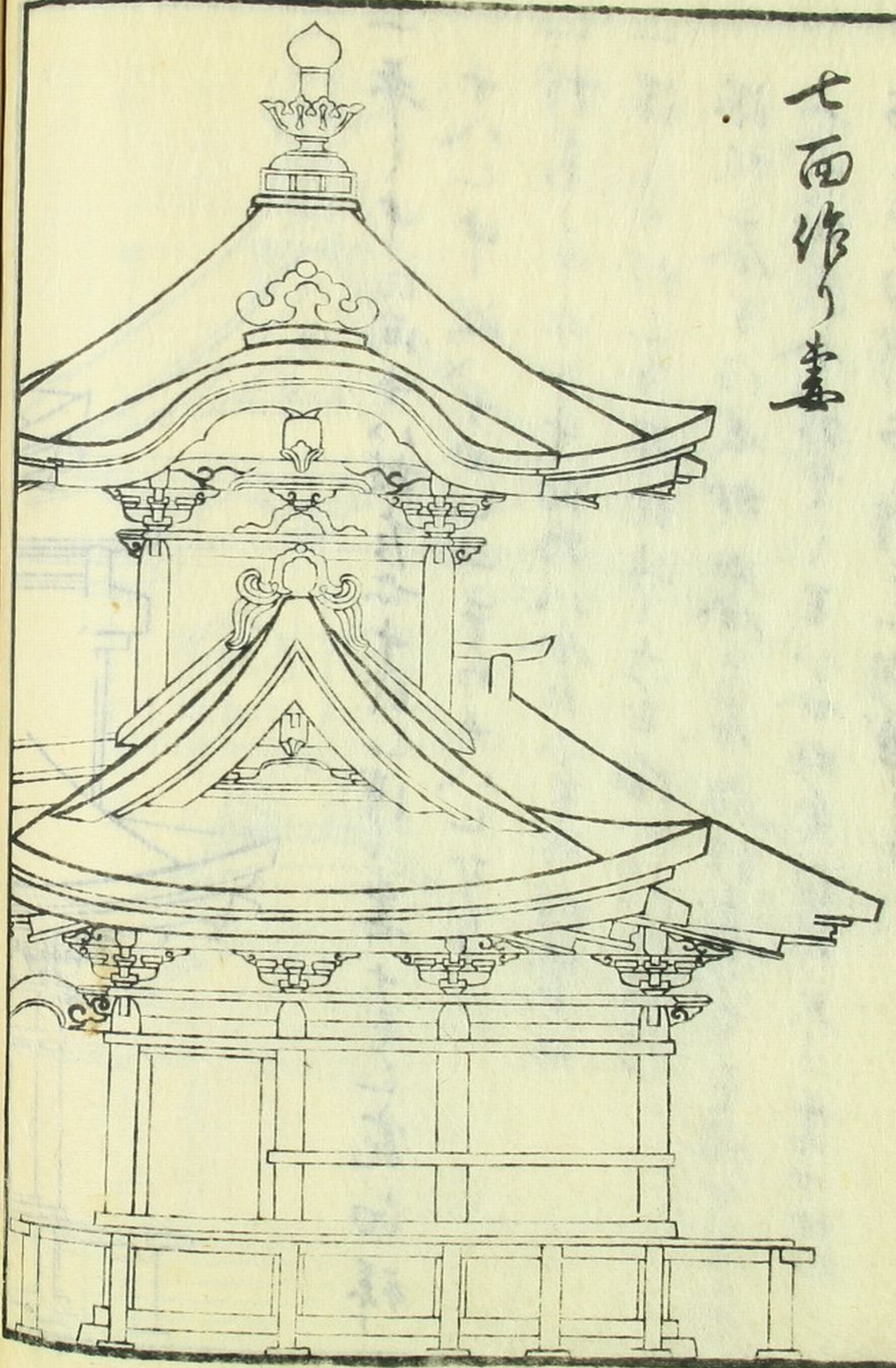
大工雑形
卷一

七面作り平



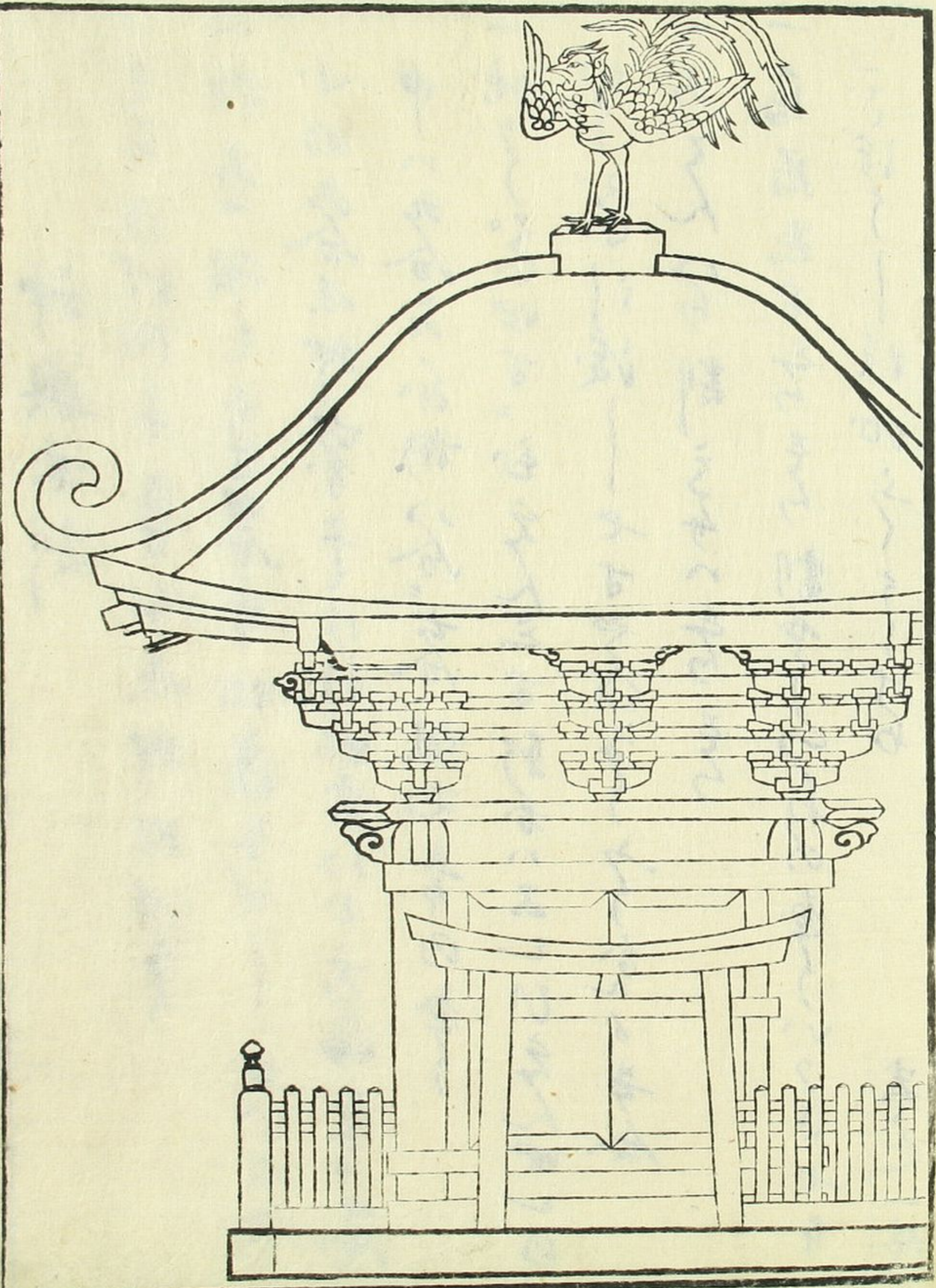
一平し中の間十八枚左右十式にぼく妻十をこ宛白祥
 十八の中級、十四に二をわ十八にたり
 一棟妻しそ丸分斗白物八分五二をわ柱分分
 一深さ分柱分半化より五分深さ分は口行
 深板分半は長押分半は内深さ分半は間と五分
 上長押分半は深さ分半は口行分半は厚五分
 上より口行より五分柱分半は割分

七面作の臺



一 地は多りある記四寸三分五厘に寸五分取方乃
 一 寸五分の引後一六寸五分取方一六寸五分
 一 腰柱を細くせしめ柱太幅を細く細く
 一 一階を祇園に引一六寸五分取方一六寸五分
 一 第一日行

二
三
多



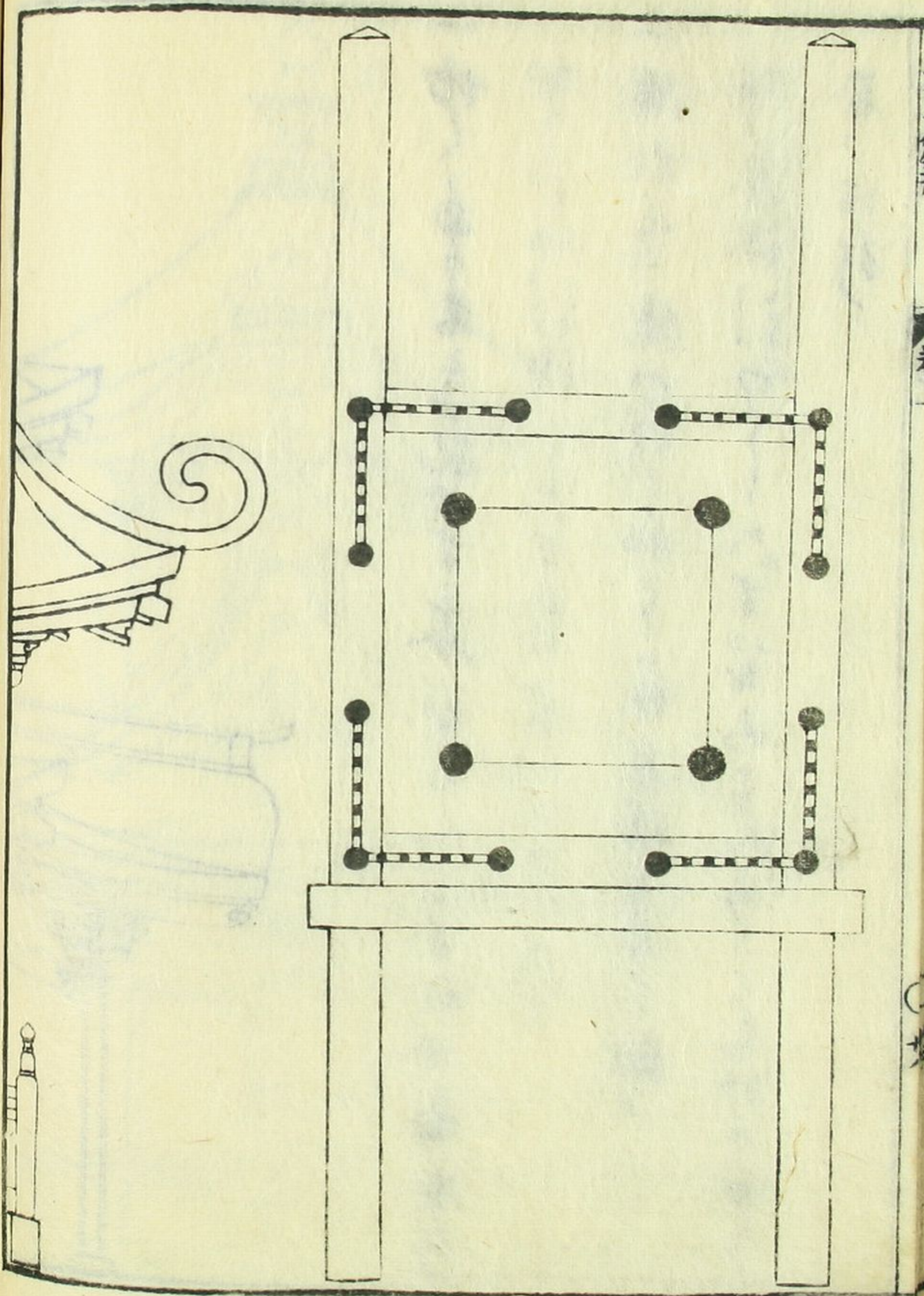
卷一

〇
一

大
三
金
開

神

〇
一



神輿本割

一 三斗内法同と九斗心長押内法あり
 一 板去内と三斗四分斗地履をげー 廿い七斗
 小のあか長押あか上は日行の世いふ大福厚斗
 中の九合五斗板のあか組の幸の無り
 一 地より四斗すに五斗とす軒あはるこいふ人四斗
 四斗より一斗一七斗とすううん斗斗合
 一 斗とん斗割と三斗の斗とす
 一 鳥居あか斗とす斗割とつねの斗とすいふと七斗
 一 斗とん斗割と三斗の斗とす

